

有価証券報告書の訂正報告書

(金融商品取引法第24条の2第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成18年9月1日
(第27期) 至 平成19年8月31日

株式会社ビックカメラ

(E03481)

第27期（自平成18年9月1日 至平成19年8月31日）

有価証券報告書の訂正報告書

本書は金融商品取引法第24条の2第1項に基づく有価証券報告書の訂正報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに、目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。

株式会社ビックカメラ

目 次

頁

第27期 有価証券報告書の訂正報告書

【表紙】	1
1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】	2
2 【訂正事項】	3
3 【訂正箇所】	3
第一部 【企業情報】	4
第1 【企業の概況】	4
1 【主要な経営指標等の推移】	4
2 【沿革】	6
3 【事業の内容】	8
4 【関係会社の状況】	10
5 【従業員の状況】	12
第2 【事業の状況】	13
1 【業績等の概要】	13
2 【販売及び仕入の状況】	15
3 【対処すべき課題】	19
4 【事業等のリスク】	20
5 【経営上の重要な契約等】	24
6 【研究開発活動】	24
7 【財政状態及び経営成績の分析】	25
第3 【設備の状況】	28
1 【設備投資等の概要】	28
2 【主要な設備の状況】	28
3 【設備の新設、除却等の計画】	31
第4 【提出会社の状況】	32
1 【株式等の状況】	32
2 【自己株式の取得等の状況】	36
3 【配当政策】	36
4 【株価の推移】	37
5 【役員の状況】	38
6 【コーポレート・ガバナンスの状況】	41
第5 【経理の状況】	46
1 【連結財務諸表等】	47
2 【財務諸表等】	92
第6 【提出会社の株式事務の概要】	127
第7 【提出会社の参考情報】	128
1 【提出会社の親会社等の情報】	128
2 【その他の参考情報】	128
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	129
監査報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年2月20日

【事業年度】 第27期(自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)

【会社名】 株式会社ビックカメラ

【英訳名】 B I C C A M E R A I N C .

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 宮嶋 宏幸

【本店の所在の場所】 東京都豊島区高田三丁目23番23号

【電話番号】 03-3987-8890

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営企画本部長兼経理本部長 金澤 正晃

【最寄りの連絡場所】 東京都豊島区東池袋一丁目10番1号

【電話番号】 03-3987-8785

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営企画本部長兼経理本部長 金澤 正晃

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成19年11月29日付で提出いたしました有価証券報告書に以下の事項を反映させることに伴い、記載内容の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正内容の概要は以下のとおりであります。

(1) 平成14年8月に実行した不動産の流動化についての会計処理の見直し

当社は、平成14年8月23日に当社池袋本店ビル及び当社本部ビルの不動産流動化を実行いたしました。本件流動化の会計処理については、「特別目的会社を活用した不動産の流動化に係る譲渡人の会計処理に関する実務指針（会計制度委員会報告第15号）」に定める売却処理の条件を満たしているものとして、売却処理（オフバランス処理）をしておりました。当時、株式会社豊島企画については、子会社・関連会社に該当しないと判断しておりましたが、同社の実質株主は名義人である個人3名ではなく、当社代表取締役社長（当時）であること、更に同社の資金調達に同人の担保提供があることから、当社としては財務諸表等規則第8条第4項第3号により同社を当社の子会社と判定すべきと認識いたしました。

その結果、当社と株式会社豊島企画との合算でのリスク負担割合は5%を超過しておりましたことから、本件流動化については売却処理ではなく金融取引処理で処理することが適正と判断して、平成14年8月に遡り不動産を資産計上（オンバランス処理）することといたしました。

(2) 連結子会社の追加

上記不動産流動化の会計処理の見直しに伴い、財務諸表等規則第8条第4項第2号及び第3号により当社の子会社となる可能性のある会社を全般的に調査し、子会社とすることが適当である会社を子会社といたしました。そのうち、不動産流動化に関連した、株式会社豊島企画他3社は連結財務諸表作成初年度において重要性があるため平成16年8月期に遡って、株式会社ラネット及び株式会社ボーダレスは当該子会社の重要性が高まったことから、平成18年8月期に遡って連結子会社とすることといたしました。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

3 事業の内容

4 関係会社の状況

5 従業員の状況

第2 事業の状況

1 業績等の概要

2 販売及び仕入の状況

4 事業等のリスク

7 財政状態及び経営成績の分析

第3 設備の状況

1 設備投資等の概要

2 主要な設備の状況

第4 提出会社の状況

3 配当政策

第5 経理の状況

1 連結財務諸表等

2 財務諸表等

[監査報告書]

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第23期	第24期	第25期	第26期	第27期
決算年月	平成15年 8月	平成16年 8月	平成17年 8月	平成18年 8月	平成19年 8月
売上高 (百万円)	—	407,002	433,424	493,957	565,751
経常利益 (百万円)	—	11,628	16,767	13,639	18,762
当期純利益 (百万円)	—	2,978	5,112	6,202	7,271
純資産額 (百万円)	—	6,549	11,613	44,582	53,140
総資産額 (百万円)	—	167,474	172,086	219,222	231,579
1株当たり純資産額 (円)	—	10,302.89	18,278.07	55,301.26	65,265.27
1株当たり当期純利益 (円)	—	4,252.91	8,042.54	9,612.76	9,616.11
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	—	3.9	6.7	19.1	21.3
自己資本利益率 (%)	—	35.1	56.3	23.2	16.0
株価収益率 (倍)	—	—	—	19.76	13.20
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	—	18,692	11,605	8,544	9,422
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	—	1,859	△120	△12,604	△15,298
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	—	△15,040	△4,878	9,560	△3,903
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	—	26,570	33,182	39,515	29,910
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	— (—)	3,313 (942)	3,658 (1,189)	4,473 (2,613)	5,052 (2,974)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 第24期より連結財務諸表を作成しておりますので、第23期の連結会計年度に係る連結経営指標等は記載しておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式がないため記載しておりません。

4. 従業員数は就業人員数であり、平均臨時雇用者数(アルバイト、派遣社員を含む。)は、年間の平均人員(1日1人8時間換算)を()外数で記載しております。

5. 第26期から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。なお、これによる損益に与える影響はありません。

6. 第24期から第27期までの連結財務諸表につきましては、旧証券取引法第193条の2の規定に基づき、あずさ監査法人の監査を受けております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第23期	第24期	第25期	第26期	第27期
決算年月		平成15年8月	平成16年8月	平成17年8月	平成18年8月	平成19年8月
売上高	(百万円)	241,214	395,721	418,323	428,135	446,409
経常利益	(百万円)	3,675	11,310	16,145	12,722	15,348
当期純利益	(百万円)	1,716	3,055	5,108	6,735	6,542
資本金	(百万円)	1,050	1,050	1,050	12,548	12,548
発行済株式総数	(株)	733,570	733,570	635,381	756,201	756,201
純資産額	(百万円)	10,429	6,653	11,713	42,503	49,255
総資産額	(百万円)	155,915	154,359	159,438	190,943	193,974
1株当たり純資産額	(円)	14,217.01	10,466.35	18,435.35	56,207.10	65,136.02
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額)	(円)	— (—)	250 (—)	250 (—)	1,000 (—)	1,500 (—)
1株当たり当期純利益	(円)	2,475.25	4,362.61	8,036.29	10,438.62	8,651.76
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	6.7	4.3	7.3	22.3	25.4
自己資本利益率	(%)	20.7	35.8	55.6	24.8	14.3
株価収益率	(倍)	—	—	—	18.20	14.67
配当性向	(%)	—	5.7	3.1	9.6	17.3
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(人)	2,452 (666)	2,888 (878)	3,197 (1,115)	3,382 (1,100)	3,673 (1,283)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式がないため記載しておりません。

3. 従業員数は就業人員数であり、平均臨時雇用者数(アルバイト、派遣社員を含む。)は、年間の平均人員(1日1人8時間換算)を()外数で記載しております。

4. 第25期は、取得した自己株式の消却により発行済株式総数が98,189株減少しております。第26期は、有償第三者割当増資 5,820株(平成18年1月30日付)、有償一般募集(ブックビルディング方式) 100,000株(平成18年8月9日付)、有償第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出しに伴う) 15,000株(平成18年8月28日付)により、発行済株式総数が合計 120,820株増加しております。

5. 第26期から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。なお、これによる損益に与える影響はありません。

6. 第24期から第27期までの財務諸表につきましては、旧証券取引法第193条の2の規定に基づき、あずさ監査法人の監査を受けておりますが、第23期の財務諸表につきましては、監査を受けておりません。

2 【沿革】

提出会社は現代表取締役会長の新井隆二が、昭和43年3月、群馬県高崎市中大類町に株式会社高崎D Pセンターを設立したことが原点であります。その後、カメラ販売部門を分離し、株式会社ビックカラー（昭和53年4月、株式会社ビックカメラ（高崎）に商号変更）を設立、カメラ及び関連商品の販売拡大を目指し、昭和53年5月、東京都豊島区西池袋に東京支店を開設いたしました。消費社会の本格化を背景に、圧倒的な商圈を有する東京での業容拡大を目指し、昭和55年11月21日に東京都豊島区西池袋に株式会社ビックカメラを設立し、株式会社ビックカメラ（高崎）の東京支店を引き継ぎ、自社店舗として事業を開始いたしました。

株式会社ビックカメラ設立以後の企業集団に係る経緯は、次のとおりであります。

年月	概要
昭和55年11月	会社設立。東京都豊島区に池袋店（後、池袋北口店に店名変更）を開店し、カメラ等の物品販売事業を開始。
昭和56年11月	共同金融事業を目的に東京カメラ流通協同組合（現連結子会社）を設立。
昭和57年6月	東京都豊島区に池袋東口店（現池袋東口総合館）を開店。
昭和59年10月	コンタクトレンズ・メガネの販売を目的に株式会社ビックコンタクトレンズ（平成4年5月、株式会社興和に商号変更）を設立。
平成元年12月	東京都渋谷区に渋谷店（現渋谷ハチ公口店）を開店。
平成3年4月	神奈川県横浜市西区に横浜西口店を開店。
7月	商品管理精度向上のため、埼玉県朝霞市に朝霞商品センターを開設。
平成4年6月	東京都豊島区に池袋東口駅前店（現池袋東口カメラ館）を開店。
6月	朝霞商品センターを閉鎖し、埼玉県新座市に新座商品センターを開設。
8月	寝具の製造・販売を目的に株式会社東京羽毛工房（平成7年6月、株式会社生毛工房に商号変更。現連結子会社）を設立。
9月	東京都豊島区に池袋本店を開店。
12月	ビックポイントカードを導入、顧客獲得のため、ポイントサービスを開始。
平成5年2月	東京都渋谷区に渋谷東口店を開店。
3月	家電商品の取付・修理を目的に株式会社東京サービスステーション（現連結子会社）を設立。
4月	ビック商品券の販売を開始。
平成6年10月	パソコン販売部門を分離し、株式会社ビックパソコン館（平成13年4月、株式会社ビックピーカンに商号変更）を設立。
平成7年7月	寝具製品の原材料確保を目的にEURO COMFORT SP. ZO. O（現非連結子会社）を設立。
平成8年3月	不動産の賃貸・管理を目的に株式会社ビックカメラビルディングを設立。
平成10年4月	東京都豊島区高田に本部部門を移転。
10月	新座商品センターを閉鎖し、東京都板橋区に前野町商品センターを開設。
平成11年4月	福岡県福岡市中央区に天神店（現天神1号館）を開店。
6月	神奈川県横浜市港北区に新横浜店を開店。
8月	放送事業を目的に日本ビーエス放送企画株式会社（平成11年12月、日本ビーエス放送株式会社に、また平成19年2月、日本BS放送株式会社に商号変更。現連結子会社）を設立。
平成12年10月	株式会社ビックカメラビルディングを株式会社ビックパソコン館へ売却。株式会社ビックビルディングに商号変更。
11月	東京都新宿区に新宿東口店を開店。
12月	日本ビーエス放送株式会社にてBSデジタルデータ放送を開始。

年月	概要
平成13年 1月	東京都立川市に立川店を開店。
4月	通信サービス業を目的に株式会社バイコム(現非連結子会社)を共同出資にて設立。
5月	大阪府大阪市中央区になんば店を開店。
6月	東京都千代田区に有楽町店を開店。
7月	北海道札幌市中央区に札幌店を開店。
9月	スポーツ用品の販売を目的に株式会社ビック・スポーツ(現連結子会社)を設立。
9月	玩具の販売を目的に株式会社ビック・トイズ(現連結子会社)を設立。
11月	酒類・飲食物の販売を目的に株式会社ビック酒販(現連結子会社)を設立。
12月	廃棄物再資源化処理技術の研究を目的に株式会社国土環境研究所(現非連結子会社)を設立。
12月	廃棄物再資源化処理を目的に株式会社フューチャー・エコロジー(現非連結子会社)を設立。
平成14年 4月	防犯機器の企画・販売を目的に株式会社セレン(現非連結子会社)を共同出資にて設立。
5月	東京都新宿区に新宿西口店を開店。
8月	株式会社興和と合併。コンタクト事業部を設置し、コンタクトレンズ・メガネ販売事業を開始。
9月	東京都豊島区に池袋西口店を開店。
平成15年 3月	福岡県福岡市中央区に天神新館(現天神2号館)を開店。
5月	株式会社ビックピーカンを吸収合併。株式会社ビックビルディング(平成19年7月、株式会社東京計画に商号変更。現連結子会社)が子会社となる。
9月	展示品のレンタル・販売を目的に株式会社ビックオフ(現連結子会社)を設立。
11月	愛知県名古屋市中村区に名古屋駅西店を開店。
11月	埼玉県さいたま市大宮区に大宮西口そごう店を開店。
平成16年 5月	運送会社である株式会社ジェービーエス(現連結子会社)を買収。
6月	放送事業の拡大を目的に豊島ケーブルネットワーク株式会社(現連結子会社)へ出資、子会社となる。
平成17年 1月	本店所在地を東京都豊島区西池袋から東京都豊島区高田に移転。
1月	中古商品の買取・販売事業強化のため、株式会社ソフマップと資本業務提携。
1月	ゴルフ場経営を目的に株式会社倶楽部我山(現非連結子会社)を設立。
3月	千葉県柏市に柏店を開店。
8月	当社グループの営業効率化のため、株式会社ビックカメラ(高崎)から営業を譲受。
8月	広告の委託先である株式会社東京計画(平成19年7月、合併により消滅)を買収。
平成18年 2月	株式会社ソフマップ(現連結子会社)の増資引受により、同社を子会社化。
5月	東京都千代田区に有楽町店別館を開店。
6月	本部機能の一部を東京都豊島区東池袋へ移転。
8月	神奈川県藤沢市に藤沢店を開店。
8月	ジャスダック証券取引所に株式を上場。
9月	神奈川県川崎市にラゾーナ川崎店を開店。
10月	埼玉県東松山市に新物流センターとなる東松山センターを開設。
平成19年 2月	株式会社エディオオンと資本業務提携。
6月	株式会社ソフマップがソフマップソフト株式会社を吸収合併。
7月	株式会社ビックビルディングが株式会社東京計画を吸収合併。また、同日付で株式会社東京計画に商号変更。
8月	京都府京都市にJR京都駅店を開店。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社と子会社31社及び関連会社3社で構成され、カメラ・テレビ・DVD・オーディオ等の音響映像商品及び家庭電化商品にパソコン・携帯電話等の情報通信機器商品等を加え、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」としての物品販売事業を主な事業内容としております。

当社は、店舗販売として、首都圏に19店舗、札幌・名古屋・京都・大阪に各1店舗、福岡に2店舗の計25店舗を集客力があり営業効率の高い主要ターミナル駅前に展開しております。また、Eコマース事業では、「ビックカメラドットコム」をインターネットのショッピングサイトとして運営しております。

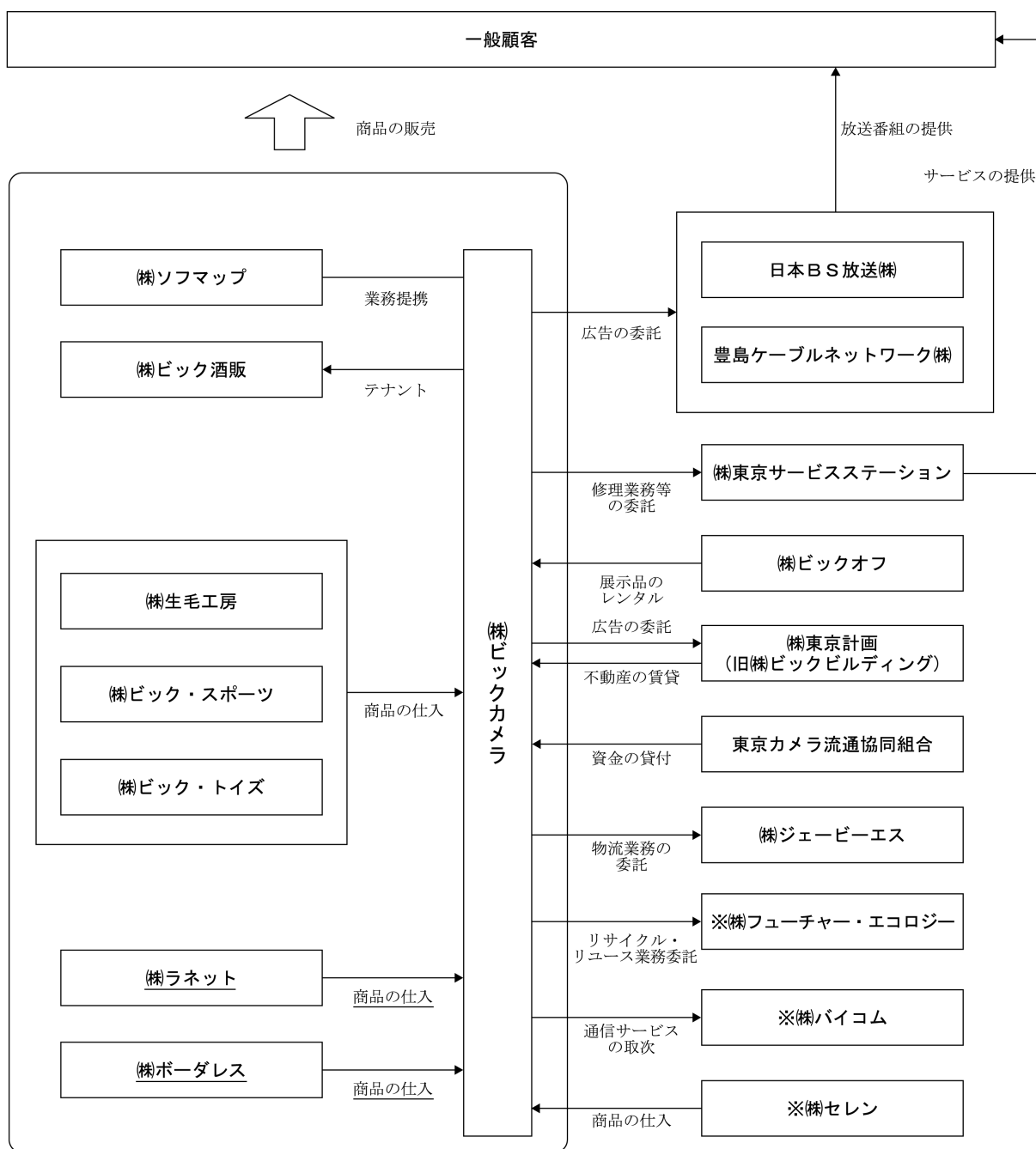
上記以外に、株式会社ソフマップ、株式会社ビック酒販、株式会社生毛工房、株式会社ビック・スポーツ、株式会社ビック・トイズ、株式会社ラネット、株式会社ボーダレスが物品販売事業を行っております。その他、株式会社東京サービスステーションは当社販売商品の取付・修理業務等を、株式会社ジェービーエスは商品の配送・管理等の物流業務を行っております。

更に、日本BS放送株式会社及び豊島ケーブルネットワーク株式会社は衛星放送・ケーブルテレビによる放送番組の提供を、株式会社ビックオフは当社店舗における展示品のレンタルを行っております。

また、株式会社東京計画は広告代理店として当社の電波広告の取扱い及び当社に対して不動産の賃貸を、東京カメラ流通協同組合は当社に資金の貸付を行っております。

その他非連結子会社において、株式会社フューチャー・エコロジーはリサイクル・リユース事業を、株式会社バイコムは通信サービスの取次を、株式会社セレンは防犯機器商品の企画販売を行っており、当社に商品の供給を行っております。

当社グループ事業系統図は次のとおりであります。



- (注) 1. ※：非連結子会社
 2. 上記系統図以外に、連結子会社4社、非連結子会社10社、持分法非適用関連会社3社があります。
 3. 日本BS放送株式会社は、平成19年2月28日付で日本ビーエス放送株式会社より商号変更しております。
 4. 株式会社ビックビルディングは、平成19年7月1日付で株式会社東京計画を合併(株式会社東京計画は合併により消滅し連結除外となっております)、同日付で株式会社東京計画に商号変更しております。
 5. 株式会社ジェービーエスは重要性が増したため、当連結会計年度より連結子会社となっております。

4 【関係会社の状況】

(1) 親会社

該当事項はありません。

(2) 連結子会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な 事業の内容	議決権の 所有割合(%)	関係内容
株式会社生毛工房	東京都豊島区	210	寝具の製造・販売	100.0	当社に商品を販売しております。 役員の兼任3名。
株式会社ジェービーエス	東京都板橋区	20	一般貨物運送業	100.0	当社の物流業務を委託しております。 役員の兼任1名。 資金貸付あり。
株式会社東京計画 (旧株式会社ビックビルディング)	東京都豊島区	10	広告代理業及び不動産の賃貸・管理	100.0	当社の広告を委託しております。また、当社に不動産を賃貸しております。 役員の兼任1名。 資金貸付、債務保証あり。
株式会社東京サービスステーション	東京都豊島区	10	家電商品の取付・修理	100.0	当社が顧客へ販売した商品の取付及び修理を請け負っております。 役員の兼任1名。
株式会社ビックオフ	東京都豊島区	50	展示品のレンタル・販売	100.0	当社に店舗用展示品をレンタルしております。 役員の兼任2名。 資金貸付あり。
株式会社ビック酒販	東京都豊島区	50	酒類・飲食物の販売	100.0	当社の店舗の一部を賃貸しております。 役員の兼任1名。
株式会社ビック・スポーツ	東京都豊島区	50	スポーツ用品の販売	100.0	当社に商品を販売しております。 役員の兼任1名。 債務保証あり。
株式会社ビック・トイズ	東京都豊島区	50	玩具の販売	100.0	当社に商品を販売しております。 役員の兼任1名。
東京カメラ流通協同組合	東京都豊島区	14	共同金融事業	100.0 (75.5)	当社に資金の貸付を行っております。 役員の兼任2名。 債務保証あり。
豊島ケーブルネットワーク株式会社 (注1)	東京都豊島区	2,400	有線テレビジョン放送事業	77.8	当社の広告を委託しております。 役員の兼任2名。 債務保証あり。
日本BS放送株式会社 (注1)	東京都千代田区	4,206	委託放送事業	77.7	当社の広告を委託しております。 役員の兼任1名。
株式会社ソフマップ (注1, 2, 5)	東京都千代田区	2,291	パソコン・デジタル機器の販売・買取	60.1	当社と中古買取等で業務提携しております。 役員の兼任2名。
株式会社ラネット	東京都豊島区	10	移動体通信機器の販売	— <100.0>	当社に商品を販売しております。
株式会社ボーダレス	東京都豊島区	10	移動体通信機器の販売	— <100.0>	当社に商品を販売しております。
その他4社 (注4)	—	—	—	—	—

(注) 1. 特定子会社であります。

2. 有価証券報告書の提出会社であります。

3. 議決権の所有割合の()内は間接所有割合で内数であり、< >内は緊密な者の所有割合で外数であります。
4. その他4社は不動産流動化に関連した、株式会社豊島企画、Sanzan Holding、株式会社三山コーポレーション、有限会社三山マネジメントの4社であります。
5. 売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えておりますが、当該連結子会社は、有価証券報告書の提出会社であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

(3) 持分法適用関連会社

該当事項はありません。

(4) その他の関係会社

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

事業の種類別セグメント情報を記載していないため、部門別の従業員数を示すと次のとおりであります。

平成19年8月31日現在

部門の名称	従業員数（人）
営業部門	4,350 (2,686)
事務部門	702 (288)
合計	5,052 (2,974)

- (注) 1. 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。
2. 臨時雇用者数(アルバイト、派遣社員を含む。)は、最近1年間の平均人員(1日1人8時間換算)を()外数で記載しております。
3. 最近1年間において、従業員数が579人増加しております。これは主に新規出店に伴う採用及び当連結会計年度より株式会社ジェービーエスを連結の範囲に含めたことによるものであります。

(2) 提出会社の状況

平成19年8月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
3,673 (1,283)	27.7	3.9	3,981,882

- (注) 1. 従業員数は、当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む就業人員数であります。
2. 臨時雇用者数(アルバイト、派遣社員を含む。)は、最近1年間の平均人員(1日1人8時間換算)を()外数で記載しております。
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
4. 最近1年間において、従業員数が291人増加しております。これは主に新規出店に伴う採用によるものであります。

(3) 労働組合の状況

提出会社の状況は、以下のとおりであります。なお、連結子会社については労働組合を結成しておりません。

- ① 名称 U I ゼンセン同盟ビックカメラ労働組合
- ② 結成年月日 平成16年11月28日
- ③ 組合員数 4,458 名(平成19年8月31日現在、臨時雇用者も含む。)
- ④ 労使関係 労使関係は良好に推移しており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景に設備投資が増加、また雇用情勢の改善などによる個人消費の改善がみられるなど、景気は概ね緩やかな回復基調で推移いたしました。

家電小売業界では、大画面薄型テレビ（液晶・プラズマ）の店頭価格の下落がありましたが、地上デジタル放送地域が平成18年12月1日に全国に拡大し、一般に広く認識されたことにより、販売台数は好調に推移いたしました。また、パソコン本体については、上半期はWindows Vista発売前の買い控えにより低迷いたしました。下半期は回復基調に転じ、季節家電についても同様に、上半期は暖冬の影響で低迷いたしました。下半期は猛暑効果もあり、好調に推移いたしました。

このような環境下、当社グループは、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店」の集合体の一層の強化を目指して、価格・品揃え・接客・サービス・店作りにおいて、お客様に更にご満足いただけるよう改善を重ねてまいりました。

店舗展開につきましては、当社は「都市型」×「駅前」×「大型」の店舗を2店開店しております。平成18年9月にJR川崎駅前のラゾーナ川崎プラザ内に「ビックカメラ ラゾーナ川崎店」を、平成19年8月にJR京都駅直結の「ビックカメラ JR京都駅店」を開店いたしました。連結子会社である株式会社ソフマップにおいては、平成19年9月に「ソフマップ 秋葉原本館」を開店いたしました。また、平成19年4月に「ビックカメラ 池袋東口総合館」及び「ビックカメラ 池袋東口カメラ館」を、平成19年6月に「ビックカメラ 池袋本店」のリニューアルオープンをいたしました。

この他、物流の拡大に対応すべく東松山センター（埼玉県東松山市）を平成18年10月に稼働開始し他センターの業務を集約し、平成19年9月には新物流システムを導入いたしました。

以上の結果、株式会社ソフマップが通年で業績に寄与したこともあり、当連結会計年度の売上高は 5,657億51百万円（前年同期比14.5%増）となりました。営業損益、経常損益についても効率的な業務運営を行った結果、営業利益は 191億90百万円（前年同期比28.4%増）、経常利益は 187億62百万円（前年同期比37.6%増）となりました。また、当連結会計年度において特別損失として投資有価証券評価損 31億21百万円などを計上した結果、当期純利益は 72億71百万円（前年同期比17.2%増）となりました。

品目別売上高は、物品販売事業のうち音響映像商品については、大画面薄型テレビ（液晶・プラズマ）の増加、その他アクセサリ、メディアなどの増加もあり、売上高は 1,254億83百万円（前年同期比4.7%増）となりました。

家庭電化商品については、エアコンなど季節家電商品が上半期の暖冬により低調でありましたが、下半期は猛暑により回復し、高機能・高付加価値・省エネ商品である洗濯機、調理家電、理美容家電などの年間を通じての好調推移により、売上高は 711億69百万円（前年同期比8.4%増）となりました。

情報通信機器商品については、Windows Vistaの発売日が公表された以降の急激なパソコン本体の買い控えの発生はありましたが、株式会社ソフマップの連結効果もあり、パソコンソフト、パソコン周辺機器の販売が増加し、売上高は 2,462億46百万円（前年同期比14.9%増）となりました。

その他の商品については、新型ゲーム機及びゲーム関連商品の販売好調に加え、株式会社ソフマップの中古商品の売上増もあり、売上高は 1,208億78百万円（前年同期比34.9%増）となりました。

物品販売事業以外のその他の事業については、当社が株式会社ビックスタッフ（現：株式会社ヒト・コミュニケーションズ）を平成17年12月に売却したことに伴う人材派遣収入の減少により、売上高は 19億74百万円（前年同期比56.2%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ 96億4百万円減少し、当連結会計年度末には 299億10百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は 94億22百万円（前連結会計年度は 85億44百万円の収入）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益 150億19百万円、法人税等の支払額 76億13百万円があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は 152億98百万円（前連結会計年度は 126億4百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出 51億90百万円、投資有価証券の取得による支出 64億55百万円、保証金の支払による支出 34億88百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は 39億3百万円（前連結会計年度は 95億60百万円の収入）となりました。これは主に長期借入金の返済（収入と支出の差額）133億12百万円があったものの短期借入金が 120億25百万円増加したことによるものであります。

2 【販売及び仕入の状況】

当社グループは音響映像商品・家庭電化商品・情報通信機器商品等の物品販売事業を主たる事業としております。

なお、全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める上記事業の割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

(1) 販売実績

① 地区別売上高

地区別	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)		
	売上高(百万円)	構成比(%)	前年同期比増減率(%)
北海道	21,377	3.8	△2.9
群馬県	3,888	0.7	△7.3
埼玉県	23,149	4.1	19.3
千葉県	13,334	2.4	△6.1
東京都	329,991	58.3	6.9
神奈川県	49,134	8.7	90.4
愛知県	31,467	5.6	10.9
京都府	6,558	1.2	133.1
大阪府	46,140	8.2	29.4
兵庫県	4,249	0.7	123.5
福岡県	12,741	2.2	△0.9
通信販売	21,743	3.8	74.0
物品販売事業	563,777	99.7	15.2
その他の事業	1,974	0.3	△56.2
合計	565,751	100.0	14.5

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

② 品目別売上高

品目別		当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)		
		売上高 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比増減率 (%)
音響映像商品	カメラ	12,254	2.2	10.8
	テレビ	41,776	7.4	11.1
	ビデオデッキ・カメラ	19,965	3.5	△7.1
	オーディオ	22,644	4.0	△10.6
	AVソフト	6,613	1.2	△5.6
	その他	22,229	3.9	27.5
	小計	125,483	22.2	4.7
家庭電化商品	冷蔵庫	11,235	2.0	6.0
	洗濯機	9,921	1.8	9.4
	調理家電	9,296	1.6	11.4
	季節家電	14,500	2.6	5.2
	理美容家電	12,466	2.2	10.3
	その他	13,748	2.4	9.4
	小計	71,169	12.6	8.4
情報通信機器 商品	パソコン本体	64,883	11.5	1.2
	パソコン周辺機器	62,212	11.0	11.1
	パソコンソフト	25,634	4.5	41.2
	携帯電話	40,981	7.2	41.1
	その他	52,534	9.3	11.9
	小計	246,246	43.5	14.9
その他の商品	TVゲーム	43,940	7.8	61.3
	時計	15,718	2.8	2.5
	書籍	1,734	0.3	7.1
	メガネ・コンタクト	4,673	0.8	5.5
	その他	54,811	9.7	33.8
	小計	120,878	21.4	34.9
物品販売事業		563,777	99.7	15.2
その他の事業		1,974	0.3	△56.2
合計		565,751	100.0	14.5

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

③ 単位当たり売上高

摘要	前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
売上高(物品販売事業) (百万円)	489,446	563,777
売場面積(期中平均) (㎡)	164,294	185,120
1㎡当たり売上高 (千円)	2,979	3,045
従業員数(期中平均) (人)	3,934	4,647
1人当たり売上高 (千円)	124,414	121,320

- (注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
2. 従業員数には臨時雇用者は含まれておりません。

(2) 仕入実績

品目別仕入高

品目別		当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)			
		仕入高 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比増減率 (%)	
物品販売事業	音響映像商品	カメラ	8,076	1.8	1.8
		テレビ	31,944	7.3	9.3
		ビデオデッキ・カメラ	14,631	3.4	△13.7
		オーディオ	17,501	4.0	△15.8
		AVソフト	5,512	1.3	△2.5
		その他	15,675	3.6	24.5
		小計	93,342	21.4	0.2
	家庭電化商品	冷蔵庫	8,680	2.0	4.7
		洗濯機	7,766	1.8	13.1
		調理家電	6,931	1.6	12.7
		季節家電	9,998	2.3	6.7
		理美容家電	9,216	2.1	9.3
		その他	9,077	2.1	19.0
		小計	51,671	11.9	10.6
	情報通信機器商品	パソコン本体	59,437	13.7	2.3
		パソコン周辺機器	47,177	10.8	16.6
		パソコンソフト	21,632	5.0	47.8
		携帯電話	32,483	7.5	34.4
		その他	37,656	8.6	15.7
		小計	198,387	45.6	16.7
	その他の商品	TVゲーム	38,648	8.9	65.4
		時計	12,770	3.0	3.9
		書籍	1,379	0.3	13.5
		メガネ・コンタクト	2,739	0.6	2.6
		その他	36,104	8.3	48.4
		小計	91,643	21.1	43.5
	合計		435,045	100.0	16.4

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く環境は、同業他社との出店競争や価格競争等が続くものと予想されます。こうした状況下において同業他社との差別化を図り、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」を目指して、お客様のご支持をいただいきたいと考えております。

(1) 市場シェアの拡大

- ① 「都市型」×「駅前」×「大型」の店舗を年2店舗程度開店するとともに、ネットショッピングや、連結子会社である日本BS放送株式会社の利用を含めたテレビショッピングへの取組を強化し、市場シェアの拡大を目指します。
- ② 子会社を含め新規事業を育成し、取扱商品及び事業分野を拡大します。

(2) 顧客の拡大と利用頻度の向上

- ① 専門性をより向上させるべく、従業員の商品知識と接客技術の向上に努めます。
- ② ビックカメラSuicaカードの拡大等、ポイントカードの付加価値を高め、会員数の増加を図り顧客層の拡大とリピーターの確保に努めます。
- ③ 決済方法の多様化、自社の提供する補償及び配送の充実、修理や工事業務の強化等、お客様の利便性と安心感を高めるサービスに努めます。

(3) コスト削減、在庫管理の徹底

- ① 原価低減の努力を更に強化します。
- ② 在庫管理を徹底し商品回転率を高め、資金の効率化を図ります。
- ③ 効率的な経費使用に徹し、経費削減に努めます。

(4) 業務提携の推進

以下の提携先について、具体的な提携効果の実現に向け積極的に取り組んでまいります。

- ① 株式会社エディオン（平成19年2月8日 資本業務提携契約締結）
共同仕入取組商品の開発・展開、魅力ある店作りへの共同取組・ノウハウ共有、役員の相互派遣等
- ② 株式会社ベスト電器（平成19年9月20日 業務・資本提携契約締結）
物流ネットワーク・サービスの相互利用、オリジナル商品の共同開発、品揃え強化に向けた協力等

4 【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業及びその他に関するリスクとして投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスク要因と考えていない事項についても、投資者の判断上重要であると考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から記載しております。

当社グループは、これらリスクの発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合に速やかな対応に努める方針ではありますが、当社株式に関する投資判断は、本項の記載事項及びそれ以外の記載内容も併せて慎重に検討した上で行われる必要があると考えられます。

また、以下の記載は、当社グループの事業もしくは当社株式への投資に関するリスクを完全に網羅するものではありませんのでご留意ください。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成19年8月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 出店政策について

① 新規出店

平成19年8月31日現在、当社は、「ビックカメラ」及び「ビックパソコン館」の店名により、首都圏及び全国主要都市の主要ターミナル駅前において25店舗を展開しております。また、株式会社ソフマップは、「ソフマップ」「ソフマップギガストア」の店名で首都圏及び関西・名古屋圏に35店舗展開しております。

当社グループは、今後も集客力の高い主要ターミナル駅前を中心として、採算性を重視した上で積極的な店舗展開を行っていく方針ですが、対象地域の商圏人口や将来性、乗降客数等に加え、物件そのものの規模、立地、競合条件や出店条件等を総合的に勘案の上、慎重に検討する必要があることから、諸条件を満たす物件が確保できず、出店計画に変更、延期等が発生した場合には、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

② 出店地域

平成19年8月31日現在、当社グループは、首都圏及び全国主要都市の主要ターミナル駅前立地において60店舗を展開しておりますが、そのうち東京都23区内を中心とした一都三県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）に出店地域が集中しております。そのため、当該地域において地震等の大災害やその他の不測の事態が発生し、店舗運営に支障が生じた場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に重大な影響を与える可能性があります。

③ 賃借物件への依存

平成19年8月31日現在、当社グループが展開する60店舗のうち52店舗がグループ外の賃貸人からの賃借物件となっております。これは資産の固定化を回避するとともに、機動的な出退店を可能にするためのものであります。しかしながら、賃借物件の場合には、賃貸人側の事由により対象物件の継続使用が困難となる可能性があることに加え、賃貸人が破綻等の状態に陥った場合には、入居保証金の全部又は一部が回収できなくなる可能性があることから、これらの事象が発生した場合には当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

なお、当社池袋東口カメラ館（旧池袋東口駅前店）として賃借している物件に関して、平成18年8月競売手続きが完了しております。競売後の新たな不動産所有者から入居保証金の大幅な減額の要求があったため、当社は入居保証金の保全のための訴訟を提起しております。その結果次第では、当社が貸主に預託している入居保証金1,843百万円の全部または一部が回収不能となる可能性があります。

(2) 季節的要因について

当社グループが販売している商品のうちの家庭電化商品の中には、冷暖房器具等のいわゆる季節商品があるため、冷夏や暖冬等の異常気象により季節商品の需要が著しく低下した場合には、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(3) 競合について

当社グループが属する家電小売業界では、合併・業務提携等による業界再編の動きが出てきております。そのため当社グループでは、効果的な新規出店を行い、低価格での販売・豊富な品揃え・サービスの向上を徹底し、効率的な経営により業績の充実・拡大を目指しておりますが、今後、同業他社との競合が激化した場合には、シェアの低下及び販売価格の下落等により、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(4) ビックポイントカード制度について

当社は平成4年からビックポイントカード制度を導入しております。本制度は、お客様が商品をご購入される都度、ご購入代金の一定率をポイントとして付与し、その後のお買い物の際に蓄積されたポイントを1ポイント1円換算で商品のご購入代金の全部又は一部としてご使用いただける制度であり、会計処理上ポイント使用時にポイント販促費（販売費及び一般管理費）に計上しております。

また、当社は将来のポイントのご使用による費用発生に備えるため、期末未使用ポイント残高に過去の使用実績割合等を乗じた金額をポイント引当金として計上しておりますが、今後ポイント制度の変更に加え、未使用ポイント残高や使用実績割合等が変動した場合にも、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(5) 有利子負債依存度について

当社グループでは、新規出店にあたっての入居保証金、店舗の内外装の設備資金等について主として金融機関からの借入金によって調達してまいりました。このため総資産に占める有利子負債の比率が比較的高い水準にあります。既存の長期借入金は金利スワップ取引等により固定金利化しており長期金利変動リスクの回避を図っておりますが、今後発生する新規借入・借換の際には、その時点での金利情勢の影響を受け、当社グループの財政状況及び経営成績に影響を与える可能性があります。

当社の最近3連結会計年度の有利子負債等の推移は次のとおりです。

		第25期	第26期	第27期
		平成17年8月	平成18年8月	平成19年8月
(1) 連結				
有利子負債残高(A)	(百万円)	103,445	100,723	97,236
総資産額(B)	(百万円)	172,086	219,222	231,579
有利子負債依存度(A/B)	(%)	60.1	45.9	42.0
支払利息(C)	(百万円)	2,504	2,469	2,275
売上高(D)	(百万円)	433,424	493,957	565,751
比率(C/D)	(%)	0.6	0.5	0.4
(2) 提出会社				
有利子負債残高(A)	(百万円)	94,069	88,080	81,801
総資産額(B)	(百万円)	159,438	190,943	193,974
有利子負債依存度(A/B)	(%)	59.0	46.1	42.2
支払利息(C)	(百万円)	2,343	2,228	1,931
売上高(D)	(百万円)	418,323	428,135	446,409
比率(C/D)	(%)	0.6	0.5	0.4

(注) 売上高に消費税等は含まれておりません。

(6) 法的規制について

① 大規模小売店舗立地法

当社グループは全国主要ターミナル駅前で大規模店舗を中心とした店舗展開を行っておりますが、売場面積が1,000㎡超の新規店舗出店、又は既存店舗の増床を行う場合には、「大規模小売店舗立地法」の規定に基づき、当該地域の生活環境保持のために、都道府県、政令指定都市を主体とした一定の審査を受ける必要があります。当社グループが今後行う新規店舗出店、又は既存店舗の増床は基本的には同法の対象となると認識しており、地域住民、地方自治体との調整を図りながら地域環境を考慮した建物の構造、運用を図る等同法を遵守する方針であります。今後、同法の審査の進捗状況によっては新規店舗出店、又は既存店舗の増床計画の遅延等により当社グループの出店政策に影響を及ぼし、経営成績に影響を与える可能性があります。

② 個人情報保護に関する法律

当社は、ポイントカードシステムの運用及びインターネット通販を行っていることに加え、お買上げ品の配送のための伝票等お客様に目的を明示した上でご記入いただいた各種伝票等の個人情報を保有しております。そのため当社では、社内規定の整備・運用や、セキュリティシステムの構築と運用強化により、個人情報の保護管理に万全を期しており、平成18年9月26日付、財団法人日本情報処理開発協会（JIPDEC）による「プライバシーマーク」を取得しております。しかしながら、不測の事態により個人情報の漏洩や不正使用等の事態が生じた場合、社会的信用の失墜や損害賠償請求等により当社の財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(7) 日本BS放送株式会社について

当社の連結子会社である日本BS放送株式会社は委託放送事業を行っております。同社は平成17年12月に総務省より認定を受け、BSデジタルハイビジョン放送〔チャンネル名：BS11（ビーエスイレブ）〕（18スロット）を平成19年12月に開始する予定であります。

当該BSデジタルハイビジョン放送は新規事業であり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(8) 人材の確保、育成について

当社グループでは、店舗展開や事業拡大を推進するためには、従業員全てが「専門性」及び「接客」に優れた活気ある人材であることが必須と認識しております。このため、職種別採用制度を導入し新規採用及び中途採用により優秀な人材の確保に努め、また、従業員の教育研修を充実することにより人材の育成に努めております。しかしながら、人材の確保、育成が適時適切に行えなかった場合には、当社グループの今後の事業展開に影響を与える可能性があります。

(9) 関連当事者との取引について

当社では、当社の役員及び主要株主(個人)、また、それらの者が議決権の過半数を所有している会社等との間に取引がありますが、関連当事者との取引については極力解消する方向により対応しております。その内容は、「第5 経理の状況、1 連結財務諸表等、(1) 連結財務諸表、注記事項、関連当事者との取引」に記載のとおりであります。

5 【経営上の重要な契約等】

当社と株式会社エディオンは、家庭電化製品、情報通信機器等の販売分野における事業基盤の強化拡大を相互に図ることを目的として、資本業務提携に関する基本契約を平成19年2月8日に締結いたしました。これに伴い、相互に相手方当事者の発行済株式総数の3%を既存株主より取得いたしました。

本契約に伴い実施される業務提携の内容は以下のとおりです。

- ① 役員の相互派遣
- ② 共同仕入取組商品の開発、展開
- ③ ポイント相互利用や、アフターサービス等の顧客サービス体制の強化
- ④ 物流ネットワークの共通利用による効率化
- ⑤ 魅力ある店作りへの共同取組、ノウハウ共有
- ⑥ 両社の強みを融合した業態開発
- ⑦ 広告宣伝企画の共同取組
- ⑧ 間接財の共同調達

なお、当連結会計年度末以降、平成19年9月20日付で株式会社ベスト電器と業務・資本提携契約を締結しております。その内容は、「第5経理の状況、1連結財務諸表等、(1)連結財務諸表、注記事項、重要な後発事象」に記載のとおりであります。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態及び経営成績の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成19年8月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表はわが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されており、重要な会計方針につきましては、「第5経理の状況、1連結財務諸表等、(1)連結財務諸表、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しているとおりであります。この連結財務諸表の作成にあたっては一定の会計基準の範囲内で見積りがなされ、たな卸資産の評価、引当金の計上等の数値に反映されております。これらの見積りについては、必要に応じて見直しを行っておりますが、不確実性があるため、実際の結果が見積りと異なる場合があります。

(2) 財政状態の分析

① 資産の部

流動資産は、前連結会計年度末に比べ 20億21百万円増加し、1,035億97百万円となりました。これは主に現金及び預金 93億18百万円の減少がありましたが、売掛金の増加 27億20百万円、たな卸資産の増加 60億5百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ 103億35百万円増加し、1,279億82百万円となりました。これは主に建物及び構築物の増加 39億83百万円、投資有価証券の増加 47億10百万円によるものであります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ 123億57百万円増加し、2,315億79百万円となりました。

② 負債の部

流動負債は、前連結会計年度末に比べ 343億37百万円増加し、1,441億91百万円となりました。これは主に短期借入金の増加 120億25百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ 305億38百万円減少し、342億47百万円となりました。これは主に長期借入金の減少 170億29百万円によるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ 37億99百万円増加し、1,784億39百万円となりました。

③ 純資産の部

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ 85億58百万円増加し、531億40百万円となりました。これは主に当期純利益 72億71百万円を計上したことによるものであります。

(3) 経営成績の分析

① 売上高・売上総利益

当連結会計年度の売上高は、平成18年8月に開店した「ビックカメラ 藤沢店」、平成18年9月に開店した「ビックカメラ ラゾーナ川崎店」の業績貢献、また、株式会社ソフマップが通年で業績に寄与したこともあり、前連結会計年度に比べ 717億94百万円増加し、売上高は5,657億51百万円となりました。品目別ではテレビ、パソコン周辺機器、パソコンソフト、TVゲーム等の売上が増加し、売上総利益は、前連結会計年度に比べ156億99百万円増加し、1,334億23百万円となりました。

② 販売費及び一般管理費・営業利益・経常利益

販売費及び一般管理費は、株式会社ソフマップが通年で連結されることに伴う諸経費の増加もあり、前連結会計年度に比べ 114億58百万円増加し、1,142億33百万円となりました。この結果、営業利益は、前連結会計年度に比べ42億41百万円増加し、191億90百万円となりました。

営業外収益は、賃貸料収入 9億32百万円、広告料収入 4億66百万円等の計上により28億65百万円となり、営業外費用は、支払利息22億75百万円、賃貸料原価 5億3百万円等の計上により32億93百万円となりました。この結果、経常利益は、前連結会計年度に比べ51億23百万円増加し、187億62百万円となりました。

③ 特別利益・特別損失・税金等調整前当期純利益・当期純利益

特別損失は、投資有価証券評価損 31億21百万円等の計上により38億29百万円となりました。この結果、税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度に比べ22億29百万円増加し、150億19百万円となり、当期純利益は、前連結会計年度に比べ10億68百万円増加し、72億71百万円となりました。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループを取り巻く環境は、同業他社との出店競争や価格競争等が続くものと予想されます。こうした状況下にあって、当社グループは「第2事業の状況、3対処すべき課題」に掲げた課題に取り組むことにより同業他社との差別化を図り、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」を目指して、継続的な成長をしていきたいと考えております。

(5) 戦略的現状と見通し

当社グループは、「第2事業の状況、3対処すべき課題」に記載しました ①市場シェアの拡大 ②顧客の拡大と利用頻度の向上 ③コスト削減、在庫管理の徹底 ④業務提携の推進 により、一層の業容の拡大と利益向上を達成する所存であります。

(6) キャッシュ・フローの分析

当社グループの当連結会計年度における資金状況は以下のとおりであります。

営業活動の結果得られた資金は 94億22百万円（前連結会計年度は 85億44百万円の収入）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益 150億19百万円、法人税等の支払額 76億13百万円があったことによるものであります。

投資活動の結果使用した資金は 152億98百万円（前連結会計年度は 126億4百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出 51億90百万円、投資有価証券の取得による支出 64億55百万円、保証金の支払による支出 34億88百万円によるものであります。

財務活動の結果使用した資金は 39億3百万円（前連結会計年度は 95億60百万円の収入）となりました。これは主に長期借入金の返済（収入と支出の差額）133億12百万円があったものの短期借入金が 120億25百万円増加したことによるものであります。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、同業他社との出店競争や価格競争等が続くものと認識しております。このような事業環境の中で、所与の経営資源を最適に活用し最善な経営計画の立案及びその達成に努めております。計画達成のため、専門店として求められる顧客サービスを強化・充実し、「都市型」×「駅前」×「大型」の店舗出店により、経営基盤の強化・拡大に努める所存であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、販売力の強化と売場効率の改善等を目的とした設備投資を継続的に実施しております。

当連結会計年度に実施した設備投資の総額は97億54百万円であります。その内訳は、有形固定資産57億3百万円、無形固定資産6億5百万円、投資その他の資産34億45百万円であり、主なものは、ラゾーナ川崎店（神奈川県川崎市）及びJ R京都駅店（京都府京都市）の店舗新設に係る設備及び保証金、東松山センター（埼玉県東松山市）の物流倉庫新設であります。

なお、営業に重要な影響を及ぼす固定資産の売却、撤去又は滅失はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

なお、当社は連結財務諸表を作成しておりますが、当社グループは音響映像商品・家庭電化商品・情報通信機器商品等の物品販売事業を主たる事業としており、全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める物品販売事業の割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

(1) 提出会社

平成19年8月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
		建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	保証金	合計	
池袋本店 (東京都豊島区)	営業店舗	3,782	—	11,517 (551)	9,024	—	24,324	255
池袋東口総合館 (東京都豊島区)	営業店舗	155	—	1,905 (105)	1,241	—	3,303	64
池袋東口カメラ館 (東京都豊島区)	営業店舗	38	—	— (—)	—	1,843	1,881	40
池袋西口店 (東京都豊島区)	営業店舗	148	—	— (—)	0	110	258	64
新宿西口店 (東京都新宿区)	営業店舗	1,136	—	5,198 (386)	3	2,154	8,493	298
新宿東口店 (東京都新宿区)	営業店舗	—	—	— (—)	0	1,357	1,357	65
渋谷東口店 (東京都渋谷区)	営業店舗	68	—	— (—)	0	2,125	2,194	146
渋谷ハチ公口店 (東京都渋谷区)	営業店舗	41	—	— (—)	—	2,179	2,221	75
有楽町店 (東京都千代田区)	営業店舗	1,051	—	— (—)	2	837	1,891	472
立川店 (東京都立川市)	営業店舗	360	0	— (—)	0	750	1,111	155

事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
		建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	保証金	合計	
ラゾーナ川崎店 (神奈川県川崎市幸区)	営業店舗	686	—	— (—)	7	1,771	2,465	135
横浜西口店 (神奈川県横浜市西区)	営業店舗	416	—	5,166 (267)	0	—	5,582	64
新横浜店 (神奈川県横浜市港北区)	営業店舗	96	0	— (—)	0	153	250	77
藤沢店 (神奈川県藤沢市)	営業店舗	366	—	— (—)	1	272	640	104
大宮西口そごう店 (埼玉県さいたま市大宮区)	営業店舗	177	—	— (—)	0	1,131	1,308	106
柏店 (千葉県柏市)	営業店舗	278	—	— (—)	0	1,005	1,283	93
高崎東口店 (群馬県高崎市)	営業店舗	111	0	649 (2,929)	0	—	760	47
名古屋駅西店 (愛知県名古屋市中村区)	営業店舗	303	—	— (—)	0	1,499	1,803	156
J R 京都駅店 (京都府京都市下京区)	営業店舗	754	—	— (—)	—	931	1,686	153
なんば店 (大阪府大阪市中央区)	営業店舗	304	—	— (—)	2	1,000	1,306	169
札幌店 (北海道札幌市中央区)	営業店舗	380	0	— (—)	2	762	1,144	194
天神1号館 (福岡県福岡市中央区)	営業店舗	—	—	— (—)	—	216	216	82
天神2号館 (福岡県福岡市中央区)	営業店舗	—	—	— (—)	—	338	338	86
パソコン館池袋本店 (東京都豊島区)	営業店舗	21	—	— (—)	—	—	21	94
パソコン館横浜駅前店 (神奈川県横浜市西区)	営業店舗	70	—	— (—)	—	200	270	39
本部 (東京都豊島区)	事務所	<u>1,020</u>	3	<u>783</u> (1,457)	445	<u>102</u>	<u>2,354</u>	387
商品センター (埼玉県東松山市他)	物流倉庫	116	0	2,861 (32,238)	220	—	3,199	8
社員寮 (埼玉県志木市他)	社員寮	658	—	1,605 (4,163)	—	—	2,264	1

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
2. 設備の種類別の帳簿価額のうち「その他」は器具備品、借地権及びソフトウェアであります。
3. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
4. 連結会社以外からの土地及び建物に係る年間の賃借料は、13,104百万円であります。
5. 上記の他、連結会社以外からの主要なリース設備の内容は、下記のとおりであります。

設備の内容	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
POSシステム・物流端末及びその周辺機器	73	244
インターネット通信販売システム	39	35
店舗・本部等における什器・備品	516	1,281

(2) 国内子会社

平成19年8月31日現在

会社名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
		建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積m ²)	建設 仮勘定	その他	保証金	合計	
株式会社生毛工房 (東京都豊島区)	営業店舗 他	2	14	— (—)	—	9	0	26	57
株式会社ジェービー エス (東京都板橋区)	物流倉庫 他	2,418	6	— (—)	—	34	—	2,459	76
株式会社東京計画 (東京都豊島区)	事務所他	809	—	3,808 (1,057,746)	6	362	—	4,986	—
株式会社東京サー ビスステーション (東京都豊島区)	事務所他	8	—	— (—)	—	25	24	58	51
株式会社ビックオ フ (東京都豊島区)	事務所他	—	—	— (—)	—	2	—	2	22
株式会社ビック酒 販 (東京都豊島区)	営業店舗 他	1	—	— (—)	—	9	—	10	62
株式会社ビック・ スポーツ (東京都豊島区)	営業店舗 他	5	—	— (—)	—	14	0	19	136
株式会社ビック・ トイズ (東京都豊島区)	営業店舗 他	0	—	— (—)	—	0	—	0	97
豊島ケーブルネッ トワーク株式会社 (東京都豊島区)	事務所他	35	97	— (—)	—	1,292	30	1,456	47
日本BS放送株式 会社 (東京都千代田区)	事務所他	7	9	— (—)	800	20	70	908	36
株式会社ソフマッ プ (東京都千代田区)	営業店舗 (本店他 34店舗)	509	—	2,723 (330)	0	339	4,688	8,260	507
	事務所他	62	0	26 (198)	—	351	736	1,176	259
株式会社ラネット (東京都豊島区)	営業店舗 他	104	0	— (—)	—	51	192	348	29
株式会社ボーダレ ス (東京都豊島区)	営業店舗 他	93	—	89 (399)	—	36	139	359	—

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
2. 設備の種類別の帳簿価額のうち「その他」は器具備品、借地権及びソフトウェアであります。
3. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
4. 株式会社東京計画の設備の一部は、提出会社に賃貸しており、パソコン館池袋本店店舗であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定額 (百万円)		資金調達 方法	着工予定 年月	完成予定 年月
			総額	既支払額			
提出会社	岡山駅前店 (岡山県岡山市)	店舗設備	1,774	236	自己資金 及び借入金	平成19年 3月	平成19年 11月
	新横浜店 (神奈川県横浜市港北区)	店舗設備	1,045	—	自己資金 及び借入金	平成19年 9月	平成20年 3月
	浜松店 (静岡県浜松市中区)	店舗設備	1,000	—	自己資金 及び借入金	平成19年 10月	平成20年 秋頃
	新潟店 (新潟県新潟市中央区)	店舗設備	1,123	211	自己資金 及び借入金	平成19年 9月	平成21年 2月
	本社 (東京都豊島区)	ネット通販 システム	1,850	19	自己資金 及び借入金	平成19年 3月	平成21年 3月
日本BS放送 株式会社	本社 (東京都千代田区)	本本社屋	3,800	800	自己資金及 び増資資金	平成18年 9月	平成20年 1月

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,541,000
計	2,541,000

(注) 平成19年7月9日開催の取締役会決議により、平成19年9月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は2,541,000株増加し、5,082,000株となっております。

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成19年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成19年11月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	756,201	1,512,402	ジャスダック 証券取引所	—
計	756,201	1,512,402	—	—

(注) 平成19年7月9日開催の取締役会決議により、平成19年9月1日付で1株を2株に株式分割いたしました。これに伴い、発行済株式総数は756,201株増加し、1,512,402株となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成15年5月21日 (注1)	56,070	733,570	580	1,050	181	623
平成17年8月24日 (注2)	△98,189	635,381	—	1,050	—	623
平成18年1月30日 (注3)	5,820	641,201	573	1,623	573	1,197
平成18年8月9日 (注4)	100,000	741,201	9,500	11,123	9,500	10,697
平成18年8月28日 (注5)	15,000	756,201	1,425	12,548	1,425	12,122

- (注) 1. 株式会社ビックピーカンを吸収合併したことによる増加(合併比率1 : 6.3)
2. 自己株式の消却による減少
3. 有償第三者割当増資による増加
発行価格 197,000円
資本組入額 98,500円
割当先 松下電器産業株式会社、株式会社リコー、東芝コンシューママーケティング株式会社、他34名
4. 有償一般募集による増加(ブックビルディング方式)
発行価格 200,000円 引受価額 190,000円
発行価額 144,500円 資本組入額 95,000円
5. 有償第三者割当増資による増加(オーバーアロットメントによる売出しに伴う)
発行価格 200,000円 引受価額 190,000円
発行価額 144,500円 資本組入額 95,000円
割当先 日興シティグループ証券株式会社
6. 平成19年9月1日に、平成19年8月31日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主に対し、所有株式数を1株につき2株の割合をもって分割いたしました。これに伴い、発行済株式総数は756,201株増加し、1,512,402株となっております。

(5) 【所有者別状況】

平成19年8月31日現在

区分	株式の状況								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	22	17	488	41	17	37,566	38,151	—
所有株式数 (株)	—	9,352	2,216	54,568	27,476	53	662,536	756,201	—
所有株式数 の割合(%)	—	1.24	0.29	7.22	3.64	0.00	87.61	100.00	—

(注) 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、9単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成19年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
新井 隆二	埼玉県東松山市	547,409	72.39
株式会社エディオン	東京都品川区西五反田8-9-5	22,686	3.00
株式会社東京放送	東京都港区赤坂5-3-6	16,795	2.22
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・ピーエルシー (常任代理人 モルガン・スタンレー証券株式会社)	25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E144QA ENGLAND (東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー)	6,520	0.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	4,262	0.56
ゴールドマン・サックス・インターナショナル (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB, U.K (東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー)	3,624	0.48
クレジット スイス ファーストポストン ヨーロッパ ピービーセク アイエヌティ ノントリートイ クライエント (常任代理人 シティバンク 銀行株式会社)	ONE CABOT SQUARE LONDON E14 4QJ, UK (東京都品川区東品川2-3-14)	2,531	0.33
モルガン・スタンレーアンドカンパニーインク (常任代理人 モルガン・スタンレー証券株式会社)	1585 BROADWAY NEW YORK, NEW YORK 10036, U. S. A. (東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー)	2,012	0.27
株式会社シード	東京都文京区本郷2-40-2	2,000	0.26
橘田 あけみ	東京都中央区	1,920	0.25
計	—	609,759	80.63

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 4,262株

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成19年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 756,201	756,201	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	756,201	—	—
総株主の議決権	—	756,201	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が9株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数9個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成19年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

(8) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、株主への適正な利益還元を最も重要な経営課題の一つと考えており、財務面での健全性を維持しつつ、長期にわたり安定した配当を継続していくことを利益配分の基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、年1回の期末配当を行うこととしております。配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針のもと、1株当たり1,500円を実施することを決定いたしました。この結果、当事業年度の配当性向は17.3%（当社単体）となりました。

内部留保資金につきましては、財務体質の強化及び今後の新規出店等の事業展開のために有効に活用し事業の拡大に努めていく方針であります。

当社は、「取締役会決議により、毎年2月末日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当金（円）
平成19年11月29日 定時株主総会決議	1,134	1,500

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第23期	第24期	第25期	第26期	第27期
決算年月	平成15年8月	平成16年8月	平成17年8月	平成18年8月	平成19年8月
最高(円)	—	—	—	216,000	191,000
最低(円)	—	—	—	189,000	111,000

(注) 株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。
当社株式は、平成18年8月10日からジャスダック証券取引所に上場されております。それ以前については、該当事項はありません。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成19年3月	4月	5月	6月	7月	8月
最高(円)	152,000	146,000	135,000	156,000	169,000	157,000
最低(円)	141,000	111,000	118,000	132,000	148,000	123,200

(注) 株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長	—	新井 隆 二	昭和21年5月28日生	昭和43年3月 昭和47年5月 昭和55年11月 平成17年11月	株式会社高崎DPセンター代表取締役社長 株式会社ビックカラー代表取締役社長 当社設立代表取締役社長 当社代表取締役会長(現任)	(注)3	898,203
代表取締役 社長	—	宮 嶋 宏 幸	昭和34年10月24日生	昭和59年3月 平成5年2月 平成8年4月 平成10年5月 平成12年3月 平成12年11月 平成14年6月 平成16年11月 平成17年3月 平成17年11月 平成19年6月	当社入社 当社渋谷東口店店長 当社取締役池袋本店店長 当社取締役営業部長兼池袋本店店長 当社取締役人事部長 当社取締役営業部長 当社取締役営業本部長 当社専務取締役商品本部長 当社代表取締役専務商品本部長 当社代表取締役社長(現任) 株式会社エディオン取締役(現任)	(注)3	2,124
常務取締役	経理本部長	金 澤 正 晃	昭和28年6月15日生	昭和52年4月 平成10年1月 平成12年1月 平成12年2月 平成12年10月 平成15年5月 平成15年7月 平成17年11月 平成18年11月 平成19年8月	株式会社富士銀行(現株式会社みずほコーポレート銀行)入行 同行融資第一部渉外役 株式会社ビックパソコン館(平成13年4月株式会社ビックピーカンに商号変更)取締役 同社取締役社長室長 同社取締役経理部長 株式会社ビックピーカンとの合併に伴い、当社取締役に就任 当社取締役経理部長 当社常務取締役経理部長 当社常務取締役経理本部長兼経理部長 当社常務取締役経理本部長(現任)	(注)3	1,016
常務取締役	営業本部長 兼関連事業 部長	塚 本 智 明	昭和34年12月1日生	昭和57年4月 平成3年9月 平成9年10月 平成14年5月 平成16年11月 平成17年9月 平成17年12月 平成18年11月	株式会社カガミ入社 当社入社 当社横浜西口店店長 当社執行役員営業部長兼新宿西口店店長 当社取締役営業部長 当社取締役営業本部長兼営業部長 当社常務取締役営業本部長兼営業部長 当社常務取締役営業本部長兼関連事業部長(現任)	(注)3	608
常務取締役	商品本部長	堀 越 雄	昭和37年5月10日生	昭和59年6月 昭和63年12月 平成7年8月 平成15年8月 平成16年11月 平成17年11月 平成18年2月 平成19年6月 平成19年9月	株式会社オリエンタルランド入社 当社入社 当社渋谷ハチ公口店店長 当社企画部長 当社執行役員企画部長 当社取締役商品本部長兼企画部長兼物流部長 当社取締役商品本部長兼企画部長 当社取締役商品本部長 当社常務取締役商品本部長(現任)	(注)3	404
常務取締役	総務本部長 兼人事部長	湯 本 善 之	昭和27年8月10日生	昭和51年4月 平成15年5月 平成17年9月 平成17年11月 平成18年11月 平成19年9月	株式会社三和銀行(現株式会社三菱東京UFJ銀行)入行 同行本郷法人営業部長 当社総務部副部長 当社総務部長 当社取締役総務本部長兼人事部長 当社常務取締役総務本部長兼人事部長(現任)	(注)3	8

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
常務取締役	—	嶋田 史雄	昭和18年11月27日生	昭和37年4月 昭和62年4月 平成8年7月 平成10年6月 平成12年6月 平成16年4月 平成16年6月 平成19年7月 平成19年11月	日本国有鉄道入社 東日本旅客鉄道株式会社総合企画 本部投資計画部主任部員 同社開発事業本部担当部長 池袋ターミナルビル株式会社取締役 役新規事業担当部長兼施設管理部 長 同社常務取締役事業開発戦略本部 事務局長 株式会社ホテルメトロポリタン常 務取締役 株式会社ジェイアール東日本住宅 開発代表取締役専務 当社執行役員開発担当 当社常務取締役(現任)	(注)3	—
常務取締役	総合企画本 部長兼開発 部長	目時 剛	昭和32年1月13日生	昭和54年4月 平成17年3月 平成19年9月 平成19年11月	株式会社富士銀行(現株式会社み ずほコーポレート銀行)入行 株式会社みずほ銀行池袋支店長 当社総合企画本部長兼開発部長 当社常務取締役総合企画本部長兼 開発部長(現任)	(注)3	—
取締役	—	野口 進	昭和31年12月13日生	昭和50年4月 昭和61年3月 平成2年7月 平成8年4月 平成10年5月 平成17年11月 平成18年2月 平成18年2月	株式会社西友ストア(現株式会 社西友)入社 当社入社 当社渋谷ハチ公口店店長 当社取締役渋谷東口店店長 当社取締役商品部長 当社取締役関連事業部長 当社取締役(現任) 株式会社ソフマップ代表取締役社 長(現任)	(注)3	8
取締役	総務部長	曾我 邦夫	昭和24年5月11日生	昭和48年4月 平成10年1月 平成12年6月 平成13年4月 平成14年10月 平成15年2月 平成15年7月 平成17年2月 平成18年2月 平成18年11月	株式会社富士銀行(現株式会社み ずほコーポレート銀行)入行 同行証券化営業部渉外役 当社監査役 株式会社バイコム代表取締役社長 (現任) 当社経理部長 当社取締役経理部長 当社取締役法務・総務部長 当社取締役総務部長 当社取締役会長室長 当社取締役総務部長(現任)	(注)3	8
取締役	C S R担当	加藤 周二	昭和28年1月10日生	昭和50年4月 平成13年4月 平成13年5月 平成13年12月 平成15年11月 平成16年12月 平成19年10月	通商産業省入省 日本新事業支援協議会事務局長 アジア・インキュベーション協会 幹事 株式会社フューチャー・エコロジ ー代表取締役社長(現任) 当社取締役 株式会社国土環境研究所代表取締 役社長(現任) 当社取締役C S R担当(現任)	(注)3	4
取締役	—	児島 仁	昭和5年12月5日生	昭和28年4月 昭和60年4月 昭和61年6月 平成2年6月 平成8年6月 平成15年7月 平成16年11月	日本電信電話公社入社 日本電信電話株式会社常務取締役 同社代表取締役副社長 同社代表取締役社長 同社取締役相談役 同社特別顧問(現任) 当社取締役(現任)	(注)3	44
取締役	—	有田 龍郎	昭和15年5月19日生	昭和38年4月 平成7年5月 平成14年6月 平成15年6月 平成16年6月 平成17年11月	株式会社富士銀行(現株式会社み ずほコーポレート銀行)入行 同行専務取締役(欧州駐在) みずほ総合研究所株式会社代表取 締役会長 日本ヒューム株式会社監査役 日本精工株式会社取締役(現任) 当社取締役(現任)	(注)3	4

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	—	生井俊重	昭和18年11月26日生	昭和42年4月 株式会社石川島播磨重工業入社 昭和44年4月 株式会社東洋経済新報社入社 平成3年10月 株式会社東京放送入社 平成11年6月 同社取締役経営企画局長 平成13年6月 同社上席執行役員経営企画局長兼 IR推進室長 平成14年6月 株式会社ビーエス・アイ代表取締役 役社長(現任) 平成14年6月 株式会社東京放送取締役(現任) 平成17年11月 当社取締役(現任)	(注)3	8
取締役	—	久保允誉	昭和25年2月18日生	昭和53年4月 第一産業株式会社(現株式会社デ オデオ)入社 昭和56年6月 同社取締役 昭和56年7月 同社常務取締役 昭和62年6月 同社専務取締役 平成3年6月 同社代表取締役副社長 平成4年4月 同社代表取締役社長 平成14年3月 株式会社エディオン代表取締役会 長 平成15年7月 株式会社デオデオ代表取締役会長 平成15年7月 株式会社エディオン代表取締役社 長(現任) 平成16年3月 株式会社暮らしのデザイン代表取 締役会長(現任) 平成16年6月 株式会社デオデオ取締役会長 (現任) 平成19年11月 当社取締役(現任)	(注)3	—
常勤監査役	—	伊藤秀行	昭和19年4月17日生	昭和38年4月 東京国税局入局 平成14年7月 雪谷税務署税務署長 平成15年7月 税理士登録 平成15年7月 当社総務部担当部長 平成16年11月 当社常勤監査役(現任)	(注)4	8
監査役	—	小松英士郎	昭和23年7月27日生	昭和47年4月 株式会社富士銀行(現株式会社み ずほコーポレート銀行)入行 平成3年10月 同行鎌倉支店長 平成14年2月 同行執行役員業務渉外部長 平成14年4月 ユーシーカード株式会社常務取締 役 平成16年2月 株式会社富士アドシステム代表取 締役社長 平成17年11月 当社監査役(現任) 平成19年10月 株式会社クオラス代表取締役社長 (現任)	(注)4	8
監査役	—	岸本裕紀子	昭和28年11月15日生	昭和51年4月 株式会社集英社入社 昭和56年3月 同社退社 平成2年、著述業(エッセイスト) を始める。(現職) 平成16年4月 日本大学法学部新聞学科非常勤講 師(現任) 平成18年1月 当社監査役(現任)	(注)4	4
計						902,459

- (注) 1. 取締役児島仁、取締役有田龍郎、取締役生井俊重及び取締役久保允誉は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役小松英士郎及び監査役岸本裕紀子は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、平成19年8月期に係る定時株主総会終結の時から平成21年8月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、平成18年8月期に係る定時株主総会終結の時から平成22年8月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5. 当社は、執行役員制度を導入しております。平成19年11月29日現在における執行役員は次の2名であります。

役職名	氏名
執行役員システム部長	遠井 銀市郎
執行役員営業部長兼有楽町店店長	石川 勝芳

6 【コーポレート・ガバナンスの状況】

(1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、業界の熾烈な競争を勝ち抜くことで各ステークホルダーの利益を最大限に高めるため、コンプライアンスの徹底を基礎に、社内の各部門が生産性の高い効率的な業務活動を邁進できるように、管理体制及び監査体制を整え、経営の透明性を高め、迅速な意思決定が出来る組織体を整備することがコーポレート・ガバナンスの基本であると考えております。

(2) コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

① 会社の機関の内容

イ. 取締役会

取締役会は、取締役12名（うち社外取締役3名）で構成され、当社の業務執行を決定し、取締役の職務の執行を監督しております。取締役会は、取締役会規程に基づき、原則として毎月1回の定例取締役会を開催しているほか、経営上の重要事項が発生した場合には、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会では法令及び社内規程に従って重要事項を審議、決定するほか、各部門の担当取締役から経営成績、業務執行状況及び予算実績差異報告等を受けております。

ロ. 常務会

常務会は、代表取締役社長及び常務取締役で構成され、本部長及び常勤監査役も出席しております。原則として毎月2回開催し、重要な決定事項のうち取締役会決定事項以外の社内規程に定められた事項の決定をしており、また、取締役会付議事項の検討も行っております。

ハ. 監査役会

監査役会は、監査役3名（うち社外監査役2名）で構成され、コーポレート・ガバナンスのあり方及び運営状況を監視し、取締役が業務執行にあたり法令及び当社の定款を遵守しているか等を含む日常的な監査を行っております。監査役は、取締役会、常務会及びその他社内の重要な会議に出席し、営業店舗・スタッフ部門・関係会社への往査等の業務に取り組んでおります。なお、監査役会は、監査役会規程に基づき、原則として毎月1回の定例監査役会を開催しているほか、必要に応じて臨時に開催することとしております。

ニ. 内部監査

代表取締役社長の直属部門である内部監査室が営業店舗・スタッフ部門・関係会社の内部監査を行っております。内部監査室員（4名）に加え必要に応じ社長が指名する特別監査員により、各部門の業務執行状況について適法性・妥当性・効率性等の観点から、会計・業務監査をするとともに、個人情報を含めた情報管理・人事労務管理の適正性も監査しております。監査結果及び改善事項は、被監査部門に通知し、改善助言後、改善内容のフォローを行っております。また、定期的に内部監査報告会を開催し、全社的な業務改善に向けた取り組みを行っております。内部監査室は、監査役及び監査法人と連携して業務を遂行しております。

ホ. 監査法人

当社はあずさ監査法人と監査契約を締結しており、当該監査法人の会計監査を受けております。平成19年8月期において業務を執行した公認会計士の氏名等は以下のとおりであります。

指定社員業務執行社員 飯田 輝夫

指定社員業務執行社員 井上 智由

(注) 継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 15名 その他 27名

へ. その他

弁護士については、弁護士事務所と顧問契約を締結し、必要に応じてアドバイスを受けております。

② 内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

当社は、取締役会において、会社法及び会社法施行規則に基づく、当社の「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要な体制」（「内部統制システム」と総称する）の整備に関連する基本方針について決議し、以下のとおり体制を整備しております。

イ. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・ 役職員の職務の執行が法令及び定款に適合し、企業倫理を重んじかつ社会的責任を果たすため、「企業行動憲章」並びに「コンプライアンスマニュアル」を全役職員に周知徹底させる。
- ・ 取締役総務本部長をコンプライアンス担当役員とし、コンプライアンス担当部門を法務部とする。担当部門は、全役職員に対し、コンプライアンスに関する研修、マニュアルの作成・配布等を行うことにより、役職員のコンプライアンスに関する知識を高め、これを尊重する意識を醸成する。
- ・ 「公益通報者保護規程」に従い、役員及び社員等が社内での法令違反行為等についての相談または通報を行いやすい体制を構築するとともに、相談者・通報者に対して不利益な取扱いを行わないこととする。
- ・ 内部監査室は、コンプライアンスの状況について内部監査の1項目として監査を実施する。

ロ. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制については、「取締役会規程」「情報セキュリティ規程」「情報管理規程」並びに「機密情報管理規程」に定めるところによる。

ハ. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ・ 業務執行体制上の組織並びに責任は、「職務分掌規程」の定めるところによる。
- ・ リスク管理担当役員は取締役総務本部長とし、リスク管理の統括部門は法務部とする。リスク管理担当役員並びに法務部は、「リスク管理規程」に基づき、当社及び関係会社のリスクを網羅的に把握・管理する体制を構築し、これを運用する。

ニ. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・ 「取締役会規程」に基づき、月1回の定例取締役会並びに必要に応じて行う臨時取締役会において重要事項の決定並びに取締役の業務執行状況についての情報を共有する。
- ・ 迅速かつ効率的な業務執行を行うため、店長会・商品会議等の諸会議を開催し、その審議を経て取締役会、常務会で執行決定を行うこととする。
- ・ 予算制度に基づき、月次業績をタイムリーに把握し、必要に応じ対応策を検討・実施する。

ホ. 会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ・ 関連事業部が関係会社の統一的内部統制を管轄する。関連事業部は、「関係会社管理規程」に基づき、内部監査室と連携し、内部監査を実施する。
- ・ リスク管理統括部門は、当社及び関係会社全体のリスクの評価及び管理の体制を適切に構築し、運用する。
- ・ コンプライアンス担当部門は、当社及び関係会社の社員に対し、その役職、業務内容等に応じて必要な研修を実施する。

ヘ. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

- ・ 内部監査室より監査役の職務を補助する使用人を選定する。
- ・ 当該使用人の任命、異動、評価、懲戒は、監査役会の同意を要するものとする。

ト. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他監査役への報告に関する体制及びその他監査役の監査が実効的に行われていることを確保するための体制

- ・ 取締役及び使用人は、当社及び関係会社各社の業務または業績に影響を与える重要な事項について監査役に報告することとする。取締役及び使用人が監査役に報告すべき事項は、監査役会と協議の上決定することとする。
- ・ 監査役は、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、取締役会その他の重要な会議に出席することとする。
- ・ 監査役会は、代表取締役、会計監査人、関係会社監査役及び内部監査室その他監査業務を担当する部門とそれぞれ会議を持つこととする。
- ・ 監査役会は、稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じ取締役または使用人に対し、その説明を求めることができる。

③ 会社と会社の社外取締役及び社外監査役との人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係

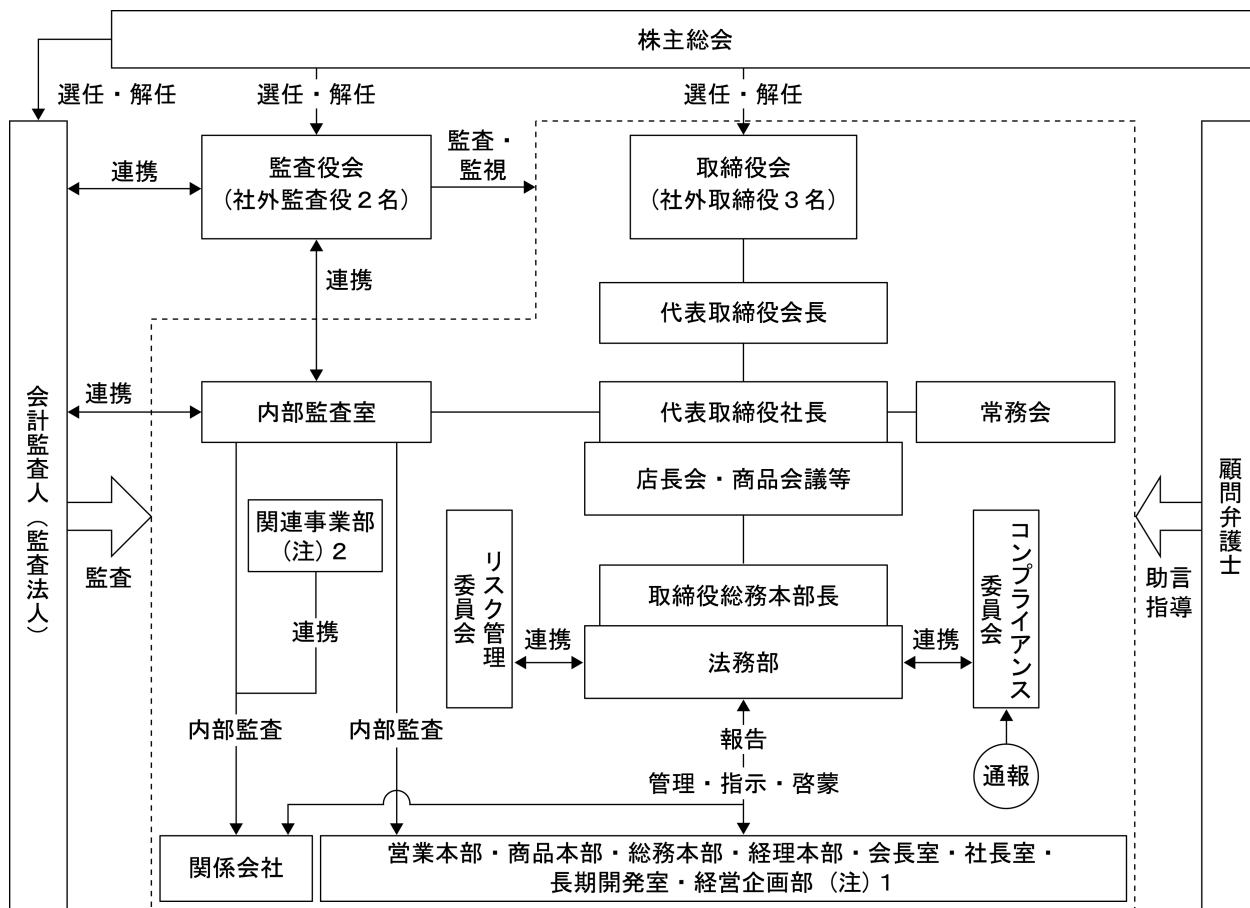
当社の社外取締役及び社外監査役と当社との間には、人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係はありません。なお、「役員状況」に記載のとおり、当社の社外取締役3名及び社外監査役3名は、当社株式を所有しております。

④ 会社のコーポレート・ガバナンスの充実に向けた取り組みの実施状況

取締役会は、毎月1回開催する定例取締役会のほか、必要に応じ臨時取締役会を開催しております。当事業年度は、定例取締役会を12回、臨時取締役会を8回開催し、社外取締役の出席率は92%、社外監査役の出席率は80%となっております。

監査役会は15回開催し、社外監査役の出席率は93%となっております。

コーポレート・ガバナンス概略図



- (注) 1. 平成19年9月1日付の組織変更に伴い、「総合企画本部」を新設しております。また、社長室を総合戦略部に、長期開発室を開発部に改組しており、経営企画部とともに総合企画本部管轄に変更しております。
2. 平成19年9月1日付の組織変更に伴い、関連事業部所管のうち非小売業の関係会社については、総合戦略部所管に変更しております。

(3) 役員報酬及び監査報酬

平成19年8月期における取締役及び監査役の報酬等の額は以下のとおりであります。

	報酬等の額 (百万円)
取締役12名	272 [25]
監査役3名	22 [6]

- (注) 1. 取締役の報酬限度額は、平成17年11月30日開催の第25期定時株主総会において、年額450百万円以内と決議いただいております。
2. 監査役の報酬限度額は、平成17年11月30日開催の第25期定時株主総会において、年額80百万円以内と決議いただいております。
3. 社外取締役・社外監査役に対する報酬は、[] 内に内数にて記載しております。
4. 上記の報酬等の額には、当事業年度に繰入れた役員退職慰労引当金の金額がそれぞれ含まれておりません。
5. 有価証券報告書提出日(平成19年11月29日)現在の取締役数は15名、監査役数は3名であります。

平成19年8月期の監査契約に係る公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬等の額は350百万円、それ以外の業務に係る報酬等の額は300百万円であります。

(4) 取締役会にて決議できる株主総会決議事項

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議をもって、毎年2月末日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を目的とするものであります。

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって、会社法第423条第1項の任務を怠ったことによる取締役及び監査役（取締役及び監査役であったものを含む。）の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役がその能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

(5) 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項及び当社定款に基づき、社外取締役及び社外監査役の全員と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は、いずれも法令が規定する最低責任限度額であります。

(6) 取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。

(7) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

(8) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(平成17年9月1日から平成18年8月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成18年9月1日から平成19年8月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成17年9月1日から平成18年8月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成18年9月1日から平成19年8月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

(3) 当社の連結財務諸表及び財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、当連結会計年度及び当事業年度より百万円単位で記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前事業年度についても百万円単位に組替えて表示しております。

2. 監査証明について

当社は、前連結会計年度(平成17年9月1日から平成18年8月31日まで)及び前事業年度(平成17年9月1日から平成18年8月31日まで)は証券取引法第193条の2の規定に基づき、また当連結会計年度(平成18年9月1日から平成19年8月31日まで)及び当事業年度(平成18年9月1日から平成19年8月31日まで)は旧証券取引法第193条の2の規定に基づき、それぞれ連結財務諸表及び財務諸表について、あずさ監査法人により監査を受けております。

また、訂正後の連結財務諸表及び財務諸表についても、あずさ監査法人により監査を受けております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成18年8月31日)		当連結会計年度 (平成19年8月31日)		
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
(資産の部)						
I 流動資産						
1. 現金及び預金	※2		41,756		32,437	
2. 売掛金			14,856		17,577	
3. たな卸資産	※2		31,153		37,158	
4. 繰延税金資産			5,339		5,570	
5. その他			8,485		10,886	
貸倒引当金			△16		△34	
流動資産合計			101,575	46.3	103,597	44.7
II 固定資産						
1. 有形固定資産						
(1) 建物及び構築物	※2	23,350		27,984		
減価償却累計額		10,213	13,137	10,863	17,120	
(2) 機械装置及び運搬具	※2	357		393		
減価償却累計額		229	127	248	145	
(3) 土地	※2		42,219		42,284	
(4) 建設仮勘定			1		842	
(5) その他	※2	5,028		5,472		
減価償却累計額		3,124	1,904	3,286	2,185	
有形固定資産合計			57,389	26.2	62,578	27.1
2. 無形固定資産						
(1) 借地権	※2		11,797		11,807	
(2) その他	※5		2,104		2,368	
無形固定資産合計			13,902	6.3	14,176	6.1
3. 投資その他の資産						
(1) 投資有価証券	※1,2		16,308		21,018	
(2) 長期貸付金			4,627		1,371	
(3) 保証金	※2		24,365		27,552	
(4) 繰延税金資産			二		157	
(5) その他	※2		1,685		1,571	
貸倒引当金			△631		△445	
投資その他の資産合計			46,355	21.2	51,227	22.1
固定資産合計			117,646	53.7	127,982	55.3
資産合計			219,222	100.0	231,579	100.0

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成18年8月31日)		当連結会計年度 (平成19年8月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 買掛金	※2	41,350		45,069	
2. 短期借入金	※2,4	14,494		26,519	
3. 一年内返済予定長期 借入金	※2	24,438		28,155	
4. 一年内償還予定社債	※2	2,500		13,495	
5. 未払法人税等		4,157		5,352	
6. 賞与引当金		1,476		1,714	
7. ポイント引当金		11,353		11,858	
8. 修理保証引当金		100		12	
9. その他	※2	9,983		12,013	
流動負債合計		109,854	50.1	144,191	62.3
II 固定負債					
1. 社債	※2	14,815		1,620	
2. 長期借入金	※2	44,475		27,445	
3. 繰延税金負債		610		—	
4. 退職給付引当金		3,150		3,656	
5. 役員退職慰労引当金		503		539	
6. その他		1,231		985	
固定負債合計		64,786	29.6	34,247	14.8
負債合計		174,640	79.7	178,439	77.1
(純資産の部)					
I 株主資本					
1. 資本金		12,548		12,548	
2. 資本剰余金		12,122		12,122	
3. 利益剰余金		15,492		22,013	
株主資本合計		40,163	18.3	46,684	20.1
II 評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価 差額金		1,655		2,669	
評価・換算差額等合計		1,655	0.8	2,669	1.2
III 少数株主持分					
少数株主持分		2,763	1.2	3,786	1.6
純資産合計		44,582	20.3	53,140	22.9
負債純資産合計		219,222	100.0	231,579	100.0

② 【連結損益計算書】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)		当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)			
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)		
I 売上高			493,957	100.0	565,751	100.0	
II 売上原価			376,233	76.2	432,328	76.4	
売上総利益			117,723	23.8	133,423	23.6	
III 販売費及び一般管理費	※ 1		102,774	20.8	114,233	20.2	
営業利益			14,948	3.0	19,190	3.4	
IV 営業外収益							
1. 受取利息		83			100		
2. 受取配当金		108			64		
3. 受取手数料		250			431		
4. 負ののれん償却額		—			105		
5. 賃貸料収入		989			932		
6. 広告料収入		420			466		
7. 協賛金収入		—			359		
8. その他		340	2,193	0.5	405	2,865	0.5
V 営業外費用							
1. 支払利息		2,469			2,275		
2. 賃貸料原価		552			503		
3. その他		480	3,502	0.7	514	3,293	0.6
経常利益			13,639	2.8	18,762	3.3	

区分	注記 番号	前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)			当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)		
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
VI 特別利益							
1. 固定資産売却益	※2	40		0			
2. 投資有価証券売却益		391		86			
3. 貸倒引当金戻入益		45		二			
4. 償却債権取立益		65	543	0.1	—	86	0.0
VII 特別損失							
1. 固定資産売却損	※3	8		—			
2. 固定資産除却損	※4	20		242			
3. 投資有価証券売却損		144		7			
4. 投資有価証券評価損		10		3,121			
5. 関係会社整理損		13		—			
6. 抱合せ株式消却損		—		183			
7. 持分変動損失		88		—			
8. 貸倒損失		24		—			
9. 減損損失	※5	1,083		201			
10. CS放送終了に伴う 解約費用		—	1,392	0.3	73	3,829	0.6
税金等調整前当期 純利益			12,790	2.6		15,019	2.7
法人税、住民税及び 事業税		7,158		8,693			
法人税等調整額		△791	6,367	1.3	△1,486	7,207	1.3
少数株主損失又は 少数株主利益(△)			△220	△0.0		△540	△0.1
当期純利益			6,202	1.3		7,271	1.3

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
平成17年8月31日残高(百万円)	1,050	623	9,452	11,126
連結会計年度中の変動額				
新株の発行	11,498	11,498	—	22,996
剰余金の配当	—	—	△158	△158
当期純利益	—	—	6,202	6,202
その他	—	—	△3	△3
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—
連結会計年度中の変動額合計 (百万円)	11,498	11,498	6,040	29,036
平成18年8月31日残高(百万円)	12,548	12,122	15,492	40,163

	評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金		
平成17年8月31日残高(百万円)	487	1,469	13,083
連結会計年度中の変動額			
新株の発行	—	—	22,996
剰余金の配当	—	—	△158
当期純利益	—	—	6,202
その他	—	—	△3
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	1,168	1,293	2,462
連結会計年度中の変動額合計 (百万円)	1,168	1,293	31,499
平成18年8月31日残高(百万円)	1,655	2,763	44,582

当連結会計年度(自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
平成18年8月31日残高(百万円)	12,548	12,122	15,492	40,163
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当	—	—	△756	△756
当期純利益	—	—	7,271	7,271
新規連結による剰余金の増加高	—	—	5	5
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—
連結会計年度中の変動額合計(百万円)	—	—	6,521	6,521
平成19年8月31日残高(百万円)	12,548	12,122	22,013	46,684

	評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金		
平成18年8月31日残高(百万円)	1,655	2,763	44,582
連結会計年度中の変動額			
剰余金の配当	—	—	△756
当期純利益	—	—	7,271
新規連結による剰余金の増加高	—	—	5
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	1,013	1,023	2,037
連結会計年度中の変動額合計(百万円)	1,013	1,023	8,558
平成19年8月31日残高(百万円)	2,669	3,786	53,140

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
		金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前当期純利益		12,790	15,019
2. 減価償却費		1,827	2,035
3. 減損損失		1,083	201
4. 連結調整勘定償却額		134	—
5. のれん償却額		—	279
6. 貸倒引当金の増減額		66	184
7. 賞与引当金の増減額		476	217
8. ポイント引当金の増減額		1,218	391
9. 退職給付引当金の増減額		371	493
10. 役員退職慰労引当金の増減額		112	36
11. その他引当金の増減額		△80	△88
12. 受取利息及び受取配当金		△192	△165
13. 支払利息		2,469	2,275
14. 為替差損益		△23	4
15. 固定資産売却益		△40	△0
16. 固定資産売却損		8	—
17. 固定資産除却損		20	242
18. 投資有価証券売却益		△391	△86
19. 投資有価証券売却損		144	7
20. 投資有価証券評価損		10	3,121
21. 抱合せ株式消却損		—	183
22. 売上債権の増減額		△941	△2,312
23. たな卸資産の増減額		△1,565	△5,151
24. 仕入債務の増減額		949	3,222
25. その他		△693	△963
小計		17,751	19,150
26. 利息及び配当金の受取額		200	200
27. 利息の支払額		△2,532	△2,314
28. 法人税等の支払額		△6,874	△7,613
営業活動によるキャッシュ・フロー		8,544	9,422

		前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 定期預金の預入による支出		<u>△856</u>	<u>△506</u>
2. 定期預金の払戻による収入		44	220
3. 有形固定資産の取得による支出		<u>△3,501</u>	<u>△5,190</u>
4. 有形固定資産の売却による収入		585	206
5. 無形固定資産の取得による支出		<u>△635</u>	<u>△654</u>
6. 投資有価証券の取得による支出		<u>△8,937</u>	<u>△6,455</u>
7. 投資有価証券の売却による収入		<u>737</u>	200
8. 出資金の回収による収入		36	0
9. 保証金の支払による支出		<u>△895</u>	<u>△3,488</u>
10. 保証金の返還による収入		1,340	<u>829</u>
11. 貸付による支出		<u>△4,693</u>	<u>△185</u>
12. 貸付の回収による収入		3,075	<u>230</u>
13. 連結子会社株式の追加取得による支出		<u>△353</u>	<u>△129</u>
14. 連結範囲の変更を伴う子会社株式の追加取得による収入	※2	1,349	—
15. 連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入		37	—
16. その他		62	<u>△374</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー		<u>△12,604</u>	<u>△15,298</u>
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 短期借入金の純増減額		<u>△2,843</u>	<u>12,025</u>
2. 長期借入れによる収入		18,010	<u>15,485</u>
3. 長期借入金の返済による支出		<u>△28,958</u>	<u>△28,797</u>
4. 社債の発行による収入		<u>3,247</u>	<u>295</u>
5. 社債の償還による支出		<u>△2,540</u>	<u>△2,500</u>
6. 株式の発行による収入		22,858	—
7. 少数株主からの払込みによる収入		—	338
8. 配当金の支払額		<u>△158</u>	<u>△750</u>
9. その他		<u>△56</u>	—
財務活動によるキャッシュ・フロー		<u>9,560</u>	<u>△3,903</u>
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		23	<u>△4</u>
V 現金及び現金同等物の増減額		<u>5,524</u>	<u>△9,783</u>
VI 現金及び現金同等物の期首残高		<u>33,182</u>	<u>39,515</u>
VII 合併による現金及び現金同等物の増加額		198	158
VIII 新規連結による現金及び現金同等物の増加額		<u>611</u>	19
IX 現金及び現金同等物の期末残高	※1	<u>39,515</u>	<u>29,910</u>

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

項目	前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社の数 18社 主要な連結子会社の名称 株式会社生毛工房 株式会社東京計画 株式会社東京サービスステーション 株式会社ビックオフ 株式会社ビック酒販 株式会社ビック・スポーツ 株式会社ビック・トイズ 株式会社ビックビルディング 日本ビーエス放送株式会社 東京カメラ流通協同組合 豊島ケーブルネットワーク株式会社 株式会社ソフマップ 株式会社ラネット 株式会社ボードレス その他4社</p> <p>なお、株式会社ソフマップは当連結会計年度に株式を取得し子会社となったため、<u>株式会社ラネット及び株式会社ボードレスは重要性が増したため、連結の範囲に加えております。</u>また、前連結会計年度において連結子会社でありました株式会社ビックスタッフは株式売却により、株式会社ワイ及び高崎ビック商業協同組合は清算結了により、連結範囲から除外しております。</p> <p>(2) 主要な非連結子会社の名称 主要な非連結子会社 株式会社ジェービーエス 株式会社バイコム 株式会社セレン 株式会社倶楽部我山 株式会社フューチャー・エコロジー ソフマップソフト株式会社 ウインケル株式会社 その他8社</p> <p>(連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>	<p>(1) 連結子会社の数 18社 主要な連結子会社の名称 株式会社生毛工房 株式会社ジェービーエス 株式会社東京計画 株式会社東京サービスステーション 株式会社ビックオフ 株式会社ビック酒販 株式会社ビック・スポーツ 株式会社ビック・トイズ 豊島ケーブルネットワーク株式会社 日本BS放送株式会社 株式会社ソフマップ 東京カメラ流通協同組合 株式会社ラネット 株式会社ボードレス その他4社</p> <p>なお、株式会社ジェービーエスは重要性が増したため、連結の範囲に加えております。また、株式会社ビックビルディングは、平成19年7月1日付で株式会社東京計画を合併(株式会社東京計画は合併により消滅し、連結除外となっております)、同日付で株式会社東京計画に商号変更しております。</p> <p>日本BS放送株式会社は、平成19年2月28日付で日本ビーエス放送株式会社より商号変更しております。</p> <p>(2) 主要な非連結子会社の名称 主要な非連結子会社 株式会社バイコム 株式会社セレン 株式会社倶楽部我山 株式会社フューチャー・エコロジー ウインケル株式会社 株式会社テレワン その他7社</p> <p>(連結の範囲から除いた理由) 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
2. 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社の数 該当事項はありません。</p> <p>(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称 非連結子会社 株式会社ジェービーエス 株式会社バイコム 株式会社セレン 株式会社倶楽部我山 株式会社フューチャー・エコロジ ソフマップソフト株式会社 ウインケル株式会社 その他 8 社 関連会社 株式会社ビクニウス その他 3 社 (持分法を適用しない理由) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社は、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用から除外しております。</p>	<p>(1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社の数 同左</p> <p>(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称 非連結子会社 株式会社バイコム 株式会社セレン 株式会社倶楽部我山 株式会社フューチャー・エコロジ ウインケル株式会社 株式会社テレワ その他 7 社 関連会社 株式会社ビクニウス その他 2 社 (持分法を適用しない理由) 同左</p>
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p><u>一部の連結子会社では、日本ビーエス放送株式会社の決算日は11月30日、豊島ケーブルネットワーク株式会社の決算日は3月31日、株式会社ソフマップの決算日は2月末日、株式会社ラネットの決算日は7月31日である等、連結子会社の決算日と連結決算日が異なっております。</u></p> <p>連結財務諸表の作成に当たって、連結子会社の決算日と連結決算日との差異が3ヶ月を超える場合においては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。</p> <p>また、連結子会社の決算日と連結決算日との差異が3ヶ月を超えない場合においては、当該連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>	<p><u>一部の連結子会社では、豊島ケーブルネットワーク株式会社の決算日は3月31日、株式会社ソフマップの決算日は2月末日、株式会社ラネットの決算日は7月31日である等、連結子会社の決算日と連結決算日が異なっております。</u></p> <p>連結財務諸表の作成に当たって、連結子会社の決算日と連結決算日との差異が3ヶ月を超える場合においては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。</p> <p>また、連結子会社の決算日と連結決算日との差異が3ヶ月を超えない場合においては、当該連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成17年 9月 1日 至 平成18年 8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年 9月 1日 至 平成19年 8月31日)
4. 会計処理基準に関する事項	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>① 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p> <p>② デリバティブ取引 時価法を採用しております。</p>	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>① 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p> <p>② デリバティブ取引 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
	<p>③ たな卸資産 商品 主として売価還元法による原価法を採用しております。 ただし、連結子会社である株式会社ソフマップにおいては、商品（中古ハード）は個別法による原価法、商品（中古ハード以外）は移動平均法による原価法を採用しております。 貯蔵品 最終仕入原価法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産 定率法を採用しております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。 また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 2～50年</p> <p>② 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) 重要な繰延資産の処理方法</p> <p>① 社債発行費 支出時に全額費用処理しております。</p> <p>② 株式交付費 支出時に全額費用処理しております。</p>	<p>③ たな卸資産 商品 同左</p> <p>貯蔵品 同左</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産 定率法を採用しております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。 また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 2～50年</p> <p>② 無形固定資産 同左</p> <p>(3) 重要な繰延資産の処理方法</p> <p>① 社債発行費 ——</p> <p>② 株式交付費 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
	<p>(4) 重要な引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 なお、回収可能性がほとんど無いと判断した回収不能見込額(219百万円)については、債権から直接減額しております。</p> <p>② 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度の負担額を計上しております。</p> <p>③ ポイント引当金 将来のポイント使用による費用発生に備えるため、当連結会計年度末未使用ポイント残高に過去の使用実績割合等を乗じた金額を計上しております。</p> <p>④ 修理保証引当金 連結子会社である株式会社ソフマップは、ワランティ事業(株式会社ソフマップ商品御買上顧客を対象とした加入申込みによる「修理負担契約」事業)による修理負担契約期間内に発生する修理費用の支出に備えるため、過去の実績を基礎にした基準により見積額を計上しております。</p>	<p>(4) 重要な引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 なお、回収可能性がほとんど無いと判断した回収不能見込額(202百万円)については、債権から直接減額しております。</p> <p>② 賞与引当金 同左</p> <p>③ ポイント引当金 将来のポイント(株主優待券を含む)使用による費用発生に備えるため、当連結会計年度末未使用ポイント残高に過去の使用実績割合等を乗じた金額を計上しております。</p> <p>④ 修理保証引当金 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
	<p>⑤ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務、連結子会社である株式会社ソフマップは退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年、10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。</p> <p>⑥ 役員退職慰労引当金 提出会社及び連結子会社の一部において、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>(5) 重要なリース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(6) 重要なヘッジ会計の方法 ① ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。また、金利スワップ及び金利キャップについて特例処理の要件を満たしている場合には、特例処理を採用しております。</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 (ヘッジ手段) 金利スワップ、金利キャップ (ヘッジ対象) 借入金の利息</p>	<p>⑤ 退職給付引当金 同左</p> <p>⑥ 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(5) 重要なリース取引の処理方法 同左</p> <p>(6) 重要なヘッジ会計の方法 ① ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成17年 9月 1日 至 平成18年 8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年 9月 1日 至 平成19年 8月31日)
	<p>③ ヘッジ方針 借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引及び金利キャップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。</p> <p>④ ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。ただし、特例処理を採用している金利スワップ及び金利キャップについては、有効性の判定を省略しております。</p> <p>(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。</p>	<p>③ ヘッジ方針 同左</p> <p>④ ヘッジ有効性評価の方法 同左</p> <p>(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左</p>
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	同左
6. 連結調整勘定の償却に関する事項	連結調整勘定の償却については、5年間で均等償却しております。	——
7. のれん及び負ののれんの償却に関する事項	——	のれん及び負ののれんの償却については、5年間で均等償却しております。
8. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左

会計処理の変更

<p>前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)</p>
<p>(固定資産の減損に係る会計基準) 当連結会計年度より「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号)を適用しております。 これにより税金等調整前当期純利益が1,083百万円減少しております。 なお、減損損失累計額については、改正後の連結財務諸表規則に基づき、各資産の金額から直接控除しております。</p>	<p>————</p>
<p>(貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準) 当連結会計年度より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。 従来の「資本の部」の合計に相当する金額は41,818百万円であります。 なお、連結財務諸表規則の改正により、当連結会計年度における連結貸借対照表の純資産の部については、改正後の連結財務諸表規則により作成しております。</p>	<p>————</p>

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
<p style="text-align: center;">——</p>	<p>(企業結合に係る会計基準等)</p> <p>当連結会計年度より「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会 平成15年10月31日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年12月27日 企業会計基準第7号)並びに「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準委員会 最終改正平成18年12月22日 企業会計基準適用指針第10号)を適用しております。</p> <p>これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>連結財務諸表規則の改正による連結財務諸表の表示に関する変更は以下のとおりであります。</p> <p>(連結損益計算書)</p> <p>前連結会計年度において、「連結調整勘定償却額」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「負ののれん償却額」又は販売費及び一般管理費に含めて表示しております。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>前連結会計年度において、「連結調整勘定償却額」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「のれん償却額」と表示しております。</p>
<p style="text-align: center;">——</p>	<p>(固定資産の減価償却方法の変更)</p> <p>平成19年度の法人税法の改正((所得税法等の一部を改正する法律 平成19年3月30日 法律第6号)及び(法人税法施行令の一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号))に伴い、平成19年4月1日以降に取得したのものについては、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。</p> <p>これによる損益に与える影響は軽微であります。</p>

表示方法の変更

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
——	(連結損益計算書) 前連結会計年度において、営業外収益「その他」に含めて表示しておりました「 <u>協賛金収入</u> 」(前連結会計年度 152百万円)については、当連結会計年度において、営業外収益の総額の100分の10を超えることとなったため、当連結会計年度より区分掲記しております。

注記事項

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成18年8月31日)	当連結会計年度 (平成19年8月31日)
<p>※1. 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。</p> <p>投資有価証券(株式) 647百万円</p>	<p>※1. 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。</p> <p>投資有価証券(株式) 686百万円</p>
<p>※2. 担保提供資産</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <p>現金及び預金 6,913百万円 (5,203百万円)</p> <p>たな卸資産 5,657百万円</p> <p>建物及び構築物 8,052百万円 (4,266百万円)</p> <p>機械装置及び運搬具 46百万円</p> <p>土地 36,465百万円 (12,300百万円)</p> <p>その他(有形固定資産) 659百万円</p> <p>借地権 10,720百万円 (9,024百万円)</p> <p>投資有価証券 3,369百万円</p> <p>保証金 9,412百万円</p> <p>その他(投資その他の資産) 563百万円</p> <hr/> <p style="text-align: right;">計 81,863百万円 (30,794百万円)</p>	<p>※2. 担保提供資産</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <p>現金及び預金 6,660百万円 (5,431百万円)</p> <p>建物及び構築物 7,503百万円 (4,038百万円)</p> <p>機械装置及び運搬具 29百万円</p> <p>土地 35,998百万円 (12,300百万円)</p> <p>その他(有形固定資産) 589百万円</p> <p>借地権 10,720百万円 (9,024百万円)</p> <p>投資有価証券 3,968百万円</p> <p>保証金 9,004百万円</p> <p>その他(投資その他の資産) 535百万円</p> <hr/> <p style="text-align: right;">計 75,010百万円 (30,794百万円)</p>
<p>(2) 上記に対応する債務</p> <p>買掛金 600百万円</p> <p>短期借入金 4,727百万円</p> <p>一年内返済予定長期借入金 13,199百万円</p> <p>一年内償還予定社債 1,300百万円 (1,300百万円)</p> <p>その他(流動負債) 545百万円</p> <p>社債 12,150百万円 (12,150百万円)</p> <p>長期借入金 25,416百万円 (3,000百万円)</p> <hr/> <p style="text-align: right;">計 57,939百万円 (16,450百万円)</p>	<p>(2) 上記に対応する債務</p> <p>短期借入金 7,995百万円</p> <p>一年内返済予定長期借入金 13,052百万円 (3,000百万円)</p> <p>一年内償還予定社債 12,150百万円 (12,150百万円)</p> <p>その他(流動負債) 735百万円</p> <p>長期借入金 17,696百万円</p> <hr/> <p style="text-align: right;">計 51,630百万円 (15,150百万円)</p>
<p>(注) 上記(1)(2)の金額のうち()内は、ノンリコースローン(責任財産限定型債務)に対応する資産及び負債であります。</p> <p>当該ノンリコースローンは、不動産を担保として調達した社債及び借入金であり、当該不動産及び当該不動産から生じた収益のみを返済原資とするものであります。</p>	同左

前連結会計年度 (平成18年8月31日)	当連結会計年度 (平成19年8月31日)																
<p>3. 偶発債務</p> <p>次の連結子会社以外の会社について、金融機関からの借入金及び仕入先からの買掛金に対し債務保証を行っております。</p> <table data-bbox="223 369 766 582"> <tr> <td>株式会社フューチャー・エコロジー</td> <td>418百万円</td> </tr> <tr> <td>ソフマップソフト株式会社</td> <td>251百万円</td> </tr> <tr> <td>ウインケル株式会社</td> <td>18百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td>689百万円</td> </tr> </table>	株式会社フューチャー・エコロジー	418百万円	ソフマップソフト株式会社	251百万円	ウインケル株式会社	18百万円	計	689百万円	<p>3. 偶発債務</p> <p>次の連結子会社以外の会社について、金融機関からの借入金及び仕入先からの買掛金に対し債務保証を行っております。</p> <table data-bbox="853 369 1396 582"> <tr> <td>株式会社フューチャー・エコロジー</td> <td>364百万円</td> </tr> <tr> <td>ウインケル株式会社</td> <td>4百万円</td> </tr> <tr> <td>株式会社テレワン</td> <td><u>100百万円</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td><u>469百万円</u></td> </tr> </table>	株式会社フューチャー・エコロジー	364百万円	ウインケル株式会社	4百万円	株式会社テレワン	<u>100百万円</u>	計	<u>469百万円</u>
株式会社フューチャー・エコロジー	418百万円																
ソフマップソフト株式会社	251百万円																
ウインケル株式会社	18百万円																
計	689百万円																
株式会社フューチャー・エコロジー	364百万円																
ウインケル株式会社	4百万円																
株式会社テレワン	<u>100百万円</u>																
計	<u>469百万円</u>																

前連結会計年度 (平成18年8月31日)	当連結会計年度 (平成19年8月31日)												
<p>※4. 提出会社及び連結子会社6社(株式会社ソフマップ他5社)においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行16行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">当座貸越極度額及び貸出 コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">31,470百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">13,707百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">差引額</td> <td style="text-align: right;">17,762百万円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額及び貸出 コミットメントの総額	31,470百万円	借入実行残高	13,707百万円	差引額	17,762百万円	<p>※4. 提出会社及び連結子会社6社(株式会社ソフマップ他5社)においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行16行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">当座貸越極度額及び貸出 コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">32,390百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">20,718百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">差引額</td> <td style="text-align: right;">11,671百万円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額及び貸出 コミットメントの総額	32,390百万円	借入実行残高	20,718百万円	差引額	11,671百万円
当座貸越極度額及び貸出 コミットメントの総額	31,470百万円												
借入実行残高	13,707百万円												
差引額	17,762百万円												
当座貸越極度額及び貸出 コミットメントの総額	32,390百万円												
借入実行残高	20,718百万円												
差引額	11,671百万円												
<p>※5. _____</p>	<p>※5. のれん及び負ののれんの表示</p> <p>のれん及び負ののれんは、相殺し無形固定資産に含めて表示しております。相殺前の金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">のれん</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">1,522百万円</td> </tr> <tr> <td>負ののれん</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">280百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">差引</td> <td style="text-align: right;">1,242百万円</td> </tr> </table>	のれん	1,522百万円	負ののれん	280百万円	差引	1,242百万円						
のれん	1,522百万円												
負ののれん	280百万円												
差引	1,242百万円												

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)																																																																										
<p>※1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>ポイント販促費</td><td style="text-align: right;">35,552百万円</td></tr> <tr><td>ポイント引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">1,242百万円</td></tr> <tr><td>給料手当</td><td style="text-align: right;"><u>14,506</u>百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;"><u>1,481</u>百万円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">528百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">120百万円</td></tr> <tr><td>地代家賃</td><td style="text-align: right;"><u>12,610</u>百万円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;"><u>1,518</u>百万円</td></tr> <tr><td>連結調整勘定償却額</td><td style="text-align: right;">134百万円</td></tr> </table> <p>※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物及び構築物</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">31百万円</td></tr> <tr><td>その他(有形固定資産)</td><td style="text-align: right;">8百万円</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">計</td><td style="text-align: right;"><u>40</u>百万円</td></tr> </table> <p>※3. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物及び構築物</td><td style="text-align: right;">6百万円</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">1百万円</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">計</td><td style="text-align: right;"><u>8</u>百万円</td></tr> </table> <p>※4. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物及び構築物</td><td style="text-align: right;">16百万円</td></tr> <tr><td>その他(有形固定資産)</td><td style="text-align: right;">3百万円</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">計</td><td style="text-align: right;"><u>20</u>百万円</td></tr> </table>	ポイント販促費	35,552百万円	ポイント引当金繰入額	1,242百万円	給料手当	<u>14,506</u> 百万円	賞与引当金繰入額	<u>1,481</u> 百万円	退職給付費用	528百万円	役員退職慰労引当金繰入額	120百万円	地代家賃	<u>12,610</u> 百万円	減価償却費	<u>1,518</u> 百万円	連結調整勘定償却額	134百万円	建物及び構築物	0百万円	土地	31百万円	その他(有形固定資産)	8百万円	計	<u>40</u> 百万円	建物及び構築物	6百万円	土地	1百万円	計	<u>8</u> 百万円	建物及び構築物	16百万円	その他(有形固定資産)	3百万円	計	<u>20</u> 百万円	<p>※1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>ポイント販促費</td><td style="text-align: right;">36,014百万円</td></tr> <tr><td>ポイント引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">391百万円</td></tr> <tr><td>給料手当</td><td style="text-align: right;"><u>16,332</u>百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;"><u>1,836</u>百万円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">747百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">67百万円</td></tr> <tr><td>地代家賃</td><td style="text-align: right;"><u>15,191</u>百万円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;"><u>1,738</u>百万円</td></tr> <tr><td>のれん償却額</td><td style="text-align: right;">384百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td style="text-align: right;"><u>22</u>百万円</td></tr> </table> <p>※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> </table> <p>※3. _____</p> <p>※4. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物及び構築物</td><td style="text-align: right;"><u>202</u>百万円</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> <tr><td>その他(有形固定資産)</td><td style="text-align: right;">25百万円</td></tr> <tr><td>その他(無形固定資産)</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> <tr><td>その他(投資その他の資産)</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> <tr><td>原状回復費用</td><td style="text-align: right;">12百万円</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">計</td><td style="text-align: right;"><u>242</u>百万円</td></tr> </table>	ポイント販促費	36,014百万円	ポイント引当金繰入額	391百万円	給料手当	<u>16,332</u> 百万円	賞与引当金繰入額	<u>1,836</u> 百万円	退職給付費用	747百万円	役員退職慰労引当金繰入額	67百万円	地代家賃	<u>15,191</u> 百万円	減価償却費	<u>1,738</u> 百万円	のれん償却額	384百万円	貸倒引当金繰入額	<u>22</u> 百万円	機械装置及び運搬具	0百万円	建物及び構築物	<u>202</u> 百万円	機械装置及び運搬具	0百万円	その他(有形固定資産)	25百万円	その他(無形固定資産)	0百万円	その他(投資その他の資産)	0百万円	原状回復費用	12百万円	計	<u>242</u> 百万円
ポイント販促費	35,552百万円																																																																										
ポイント引当金繰入額	1,242百万円																																																																										
給料手当	<u>14,506</u> 百万円																																																																										
賞与引当金繰入額	<u>1,481</u> 百万円																																																																										
退職給付費用	528百万円																																																																										
役員退職慰労引当金繰入額	120百万円																																																																										
地代家賃	<u>12,610</u> 百万円																																																																										
減価償却費	<u>1,518</u> 百万円																																																																										
連結調整勘定償却額	134百万円																																																																										
建物及び構築物	0百万円																																																																										
土地	31百万円																																																																										
その他(有形固定資産)	8百万円																																																																										
計	<u>40</u> 百万円																																																																										
建物及び構築物	6百万円																																																																										
土地	1百万円																																																																										
計	<u>8</u> 百万円																																																																										
建物及び構築物	16百万円																																																																										
その他(有形固定資産)	3百万円																																																																										
計	<u>20</u> 百万円																																																																										
ポイント販促費	36,014百万円																																																																										
ポイント引当金繰入額	391百万円																																																																										
給料手当	<u>16,332</u> 百万円																																																																										
賞与引当金繰入額	<u>1,836</u> 百万円																																																																										
退職給付費用	747百万円																																																																										
役員退職慰労引当金繰入額	67百万円																																																																										
地代家賃	<u>15,191</u> 百万円																																																																										
減価償却費	<u>1,738</u> 百万円																																																																										
のれん償却額	384百万円																																																																										
貸倒引当金繰入額	<u>22</u> 百万円																																																																										
機械装置及び運搬具	0百万円																																																																										
建物及び構築物	<u>202</u> 百万円																																																																										
機械装置及び運搬具	0百万円																																																																										
その他(有形固定資産)	25百万円																																																																										
その他(無形固定資産)	0百万円																																																																										
その他(投資その他の資産)	0百万円																																																																										
原状回復費用	12百万円																																																																										
計	<u>242</u> 百万円																																																																										

前連結会計年度
(自 平成17年9月1日
至 平成18年8月31日)

※5. 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類
群馬県	遊休資産 1物件	土地
埼玉県	営業店舗 2店舗	建物及び構築物、ソフトウェア、リース資産
千葉県	営業店舗 1店舗	建物及び構築物、リース資産
東京都	営業店舗等 1店舗、 2物件	建物及び構築物、ソフトウェア、リース資産
	賃貸物件 2物件	建物及び構築物、土地
	遊休資産 2物件	建物及び構築物、土地
神奈川県	営業店舗 1店舗	建物及び構築物、リース資産
愛知県	営業店舗 1店舗	建物及び構築物、その他
福岡県	営業店舗 2店舗	建物及び構築物、リース資産、その他

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本としており、遊休資産については、当該資産単独でグルーピングしております。

営業活動から生じる損益が継続してマイナスである店舗及び時価が著しく下落した遊休資産について、資産グループの固定資産簿価を全額回収できる可能性が低いと判断した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失(1,083百万円)として特別損失に計上しております。なお、減損損失の内訳は以下のとおりです。

建物及び構築物	440百万円
土地	99百万円
その他(有形固定資産)	10百万円
無形固定資産	31百万円
リース資産	501百万円

当社グループの当該資産グループの回収可能価額は、正味売却価額と使用価値のいずれか高い方の金額により測定しております。なお、不動産については、不動産鑑定評価に基づき算定しており、無形固定資産及びリース資産については、正味売却価額を零として算定しております。また、使用価値については、将来キャッシュ・フローを主として4%の割引率で割り引いて算定しております。

当連結会計年度
(自 平成18年9月1日
至 平成19年8月31日)

※5. 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類
東京都	営業店舗 2店舗	建物及び構築物、土地、その他
神奈川県	営業店舗 1店舗	その他
京都府	営業店舗 1店舗	その他
福岡県	営業店舗 2店舗	建物及び構築物、リース資産

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本としており、遊休資産については、当該資産単独でグルーピングしております。

営業活動から生じる損益が継続してマイナスである店舗及び時価が著しく下落した遊休資産について、資産グループの固定資産簿価を全額回収できる可能性が低いと判断した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失(201百万円)として特別損失に計上しております。なお、減損損失の内訳は以下のとおりです。

建物及び構築物	56百万円
土地	114百万円
その他(有形固定資産)	27百万円
その他(投資その他の資産)	0百万円
リース資産	3百万円

当社グループの当該資産グループの回収可能価額は、正味売却価額と使用価値のいずれか高い方の金額により測定しております。なお、不動産については、不動産鑑定評価に基づき算定しており、無形固定資産及びリース資産については、正味売却価額を零として算定しております。また、使用価値については、将来キャッシュ・フローを主として4%の割引率で割り引いて算定しております。

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成17年9月1日至平成18年8月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式(注)	635,381	120,820	—	756,201

(注) 発行済株式増加の120,820株は新株発行によるものであります。

2. 自己株式の種類及び総数に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成17年11月30日 定時株主総会	普通株式	158	250.00	平成17年8月31日	平成17年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成18年11月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	756	1,000.00	平成18年8月31日	平成18年11月29日

当連結会計年度（自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	756,201	—	—	756,201

2. 自己株式の種類及び総数に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成18年11月28日 定時株主総会	普通株式	756	1,000.00	平成18年8月31日	平成18年11月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成19年11月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,134	1,500.00	平成19年8月31日	平成19年11月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)																																																
<p>※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">41,756百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△2,240百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">39,515百万円</td> </tr> </table> <p>※2. 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳 株式の取得により新たに連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得による収入(純額)との関係は次のとおりであります。 株式会社ソフマップ (平成18年2月28日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">12,660百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">11,602百万円</td> </tr> <tr> <td>連結調整勘定</td> <td style="text-align: right;">1,477百万円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">△17,453百万円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">△4,713百万円</td> </tr> <tr> <td>少数株主持分</td> <td style="text-align: right;">△889百万円</td> </tr> <tr> <td>新規連結子会社の投資残高</td> <td style="text-align: right;">2,684百万円</td> </tr> <tr> <td>既取得価額</td> <td style="text-align: right;">△684百万円</td> </tr> <tr> <td>同社株式の取得価額</td> <td style="text-align: right;">2,000百万円</td> </tr> <tr> <td>同社の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">3,349百万円</td> </tr> <tr> <td>差引: 同社取得による収入</td> <td style="text-align: right;">1,349百万円</td> </tr> </table> <p>3. _____</p>	現金及び預金勘定	41,756百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△2,240百万円	現金及び現金同等物	39,515百万円	流動資産	12,660百万円	固定資産	11,602百万円	連結調整勘定	1,477百万円	流動負債	△17,453百万円	固定負債	△4,713百万円	少数株主持分	△889百万円	新規連結子会社の投資残高	2,684百万円	既取得価額	△684百万円	同社株式の取得価額	2,000百万円	同社の現金及び現金同等物	3,349百万円	差引: 同社取得による収入	1,349百万円	<p>※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">32,437百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△2,527百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">29,910百万円</td> </tr> </table> <p>※2. _____</p> <p>3. 当連結会計年度に連結子会社である株式会社ソフマップと合併したソフマップソフト株式会社より引き継いだ資産及び負債の主な内訳は次のとおりであります。また、合併により増加した資本金及び資本準備金はありません。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">合併により引き継いだ資産・負債</td> </tr> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">1,155百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">586百万円</td> </tr> <tr> <td>資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,742百万円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">611百万円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">1,666百万円</td> </tr> <tr> <td>負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,277百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	32,437百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△2,527百万円	現金及び現金同等物	29,910百万円	合併により引き継いだ資産・負債		流動資産	1,155百万円	固定資産	586百万円	資産合計	1,742百万円	流動負債	611百万円	固定負債	1,666百万円	負債合計	2,277百万円
現金及び預金勘定	41,756百万円																																																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△2,240百万円																																																
現金及び現金同等物	39,515百万円																																																
流動資産	12,660百万円																																																
固定資産	11,602百万円																																																
連結調整勘定	1,477百万円																																																
流動負債	△17,453百万円																																																
固定負債	△4,713百万円																																																
少数株主持分	△889百万円																																																
新規連結子会社の投資残高	2,684百万円																																																
既取得価額	△684百万円																																																
同社株式の取得価額	2,000百万円																																																
同社の現金及び現金同等物	3,349百万円																																																
差引: 同社取得による収入	1,349百万円																																																
現金及び預金勘定	32,437百万円																																																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△2,527百万円																																																
現金及び現金同等物	29,910百万円																																																
合併により引き継いだ資産・負債																																																	
流動資産	1,155百万円																																																
固定資産	586百万円																																																
資産合計	1,742百万円																																																
流動負債	611百万円																																																
固定負債	1,666百万円																																																
負債合計	2,277百万円																																																

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)					当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)				
1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (借主側)					1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (借主側)				
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額					(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額				
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	減損損失 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	減損損失 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
建物及び 構築物	5	1	0	3	建物及び 構築物	5	2	0	2
機械装置及び 運搬具	668	340	265	61	機械装置及び 運搬具	288	179	54	54
その他(有形 固定資産)	3,483	1,345	199	1,938	その他(有形 固定資産)	4,497	1,945	317	2,235
その他(無形 固定資産)	175	64	18	92	その他(無形 固定資産)	156	77	0	79
合計	4,332	1,751	483	2,096	合計	4,948	2,205	371	2,371
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。					(注) 同左				
(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額					(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額				
1年内 858百万円					1年内 935百万円				
1年超 1,550百万円					1年超 1,619百万円				
合計 2,408百万円					合計 2,554百万円				
リース資産減損勘定期末残高 312百万円					リース資産減損勘定期末残高 183百万円				
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。					(注) 同左				
(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失					(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失				
支払リース料 1,007百万円					支払リース料 891百万円				
リース資産減損勘定の取崩額 182百万円					リース資産減損勘定の取崩額 207百万円				
減価償却費相当額 1,007百万円					減価償却費相当額 891百万円				
減損損失 488百万円					減損損失 1百万円				
(4) 減価償却費相当額の算定方法					(4) 減価償却費相当額の算定方法				
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。					同左				

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
2. オペレーティング・リース取引 (借主側) 未経過リース料 1年内 <u>5,387</u> 百万円 1年超 <u>16,280</u> 百万円 <hr/> 合計 <u>21,667</u> 百万円	2. オペレーティング・リース取引 (借主側) 未経過リース料 1年内 <u>5,604</u> 百万円 1年超 <u>22,312</u> 百万円 <hr/> 合計 <u>27,917</u> 百万円

(有価証券関係)

1. その他有価証券で時価のあるもの

区 分	前連結会計年度(平成18年8月31日)			当連結会計年度(平成19年8月31日)		
	取得原価 (百万円)	連結貸借 対照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)	取得原価 (百万円)	連結貸借 対照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの						
(1) 株式	8,336	11,144	2,808	8,216	14,555	6,338
(2) 債券						
① 国債・地方債等	—	—	—	—	—	—
② 社債	6	12	6	—	—	—
③ その他	—	—	—	—	—	—
(3) その他	—	—	—	—	—	—
小 計	8,342	11,156	2,814	8,216	14,555	6,338
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの						
(1) 株式	100	95	△5	5,978	3,965	△2,013
(2) 債券						
① 国債・地方債等	—	—	—	—	—	—
② 社債	—	—	—	—	—	—
③ その他	—	—	—	—	—	—
(3) その他	—	—	—	—	—	—
小 計	100	95	△5	5,978	3,965	△2,013
合 計	8,442	11,251	2,809	14,195	18,520	4,325

(注) その他有価証券のうち時価のある株式について前連結会計年度及び当連結会計年度に減損処理を行った株式はありません。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度 (自平成17年9月1日至平成18年8月31日)			当連結会計年度 (自平成18年9月1日至平成19年8月31日)		
売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
737	391	—	95	37	△0

3. 時価評価されていない主な有価証券

区 分	前連結会計年度(平成18年8月31日)	当連結会計年度(平成19年8月31日)
	連結貸借対照表計上額 (百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)
その他有価証券		
非上場株式	4,243	1,588
その他	166	222
合計	4,409	1,811

(デリバティブ取引関係)

1. 取引の状況に関する事項

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
<p>(1) 取引の内容 利用しているデリバティブ取引は、金利スワップ及び金利キャップであります。</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 デリバティブ取引は、将来の金利の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。</p> <p>(3) 取引の利用目的 デリバティブ取引は、借入金利等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避する目的で利用しております。 なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。</p> <p>①ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。また、金利スワップ及び金利キャップについて特例処理の要件を満たしている場合には、特例処理を採用しております。</p> <p>②ヘッジ手段とヘッジ対象 (ヘッジ手段) 金利スワップ、金利キャップ (ヘッジ対象) 借入金の利息</p> <p>③ヘッジ方針 借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引及び金利キャップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。</p> <p>④ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の変動相場又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。ただし、特例処理を採用している金利スワップ及び金利キャップについては、有効性の判定を省略しております。</p> <p>(4) 取引に係るリスクの内容 金利スワップ及び金利キャップについては、市場金利の変動によるリスクがあります。なお、取引の契約先は信用度の高い金融機関に限定しているため、相手先の契約不履行による信用リスクはほとんどないと認識しております。</p> <p>(5) 取引に係るリスク管理体制 デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内ルールに従い、資金担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。</p>	<p>(1) 取引の内容 同左</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 同左</p> <p>(3) 取引の利用目的 同左</p> <p>①ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>②ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>③ヘッジ方針 同左</p> <p>④ヘッジ有効性評価の方法 同左</p> <p>(4) 取引に係るリスクの内容 同左</p> <p>(5) 取引に係るリスク管理体制 同左</p>

2. 取引の時価等に関する事項

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益
金利関連

区分	種類	前連結会計年度(平成18年8月31日)				当連結会計年度(平成19年8月31日)			
		契約金額等 (百万円)	契約金額等 のうち1年 超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)	契約金額等 (百万円)	契約金額等 のうち1年 超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	金利スワップ取引 受取変動・支払 固定	510	500	△4	△4	500	—	△0	△0
	金利キャップ取引 買建	2,450	2,450	19	△96	2,450	500	10	△105
合計		2,960	2,950	15	△100	2,950	500	9	△106

(注) 1. 金利スワップ取引及び金利キャップ取引のうち特例処理の対象になっているものは、ヘッジ会計を適用しておりますので、注記の対象から除いております。

2. 金利スワップ取引及び金利キャップ取引の時価については、取引銀行より提示された価格によっております。

(退職給付関係)

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)																																																				
<p>1. 採用している退職給付制度の概要</p> <p>提出会社及び連結子会社は、退職一時金制度を設けております。また、連結子会社である株式会社ソフマップは退職一時金制度と適格退職年金制度を設けているほか、厚生年金基金制度（総合設立型）にも加入しております。</p> <p>2. 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">①退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">△3,786百万円</td> </tr> <tr> <td>②年金資産</td> <td style="text-align: right;">323百万円</td> </tr> <tr> <td>③未積立退職給付債務(①+②)</td> <td style="text-align: right;">△3,463百万円</td> </tr> <tr> <td>④未認識過去勤務債務</td> <td style="text-align: right;">136百万円</td> </tr> <tr> <td>⑤未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">220百万円</td> </tr> <tr> <td>⑥貸借対照表計上額純額 (③+④+⑤)</td> <td style="text-align: right;">△3,106百万円</td> </tr> <tr> <td>⑦前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">43百万円</td> </tr> <tr> <td>⑧退職給付引当金(⑥-⑦)</td> <td style="text-align: right;">△3,150百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 一部の連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。また、連結子会社である株式会社ソフマップは、東京都小型コンピュータソフトウェア産業厚生年金基金に加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は、退職給付会計実務指針33項の例外処理に該当する制度であります。同基金の年金資産残高のうち同社の加入人員割合に基づく平成18年2月28日現在の年金資産残高は、2,948百万円であり、上記年金資産には含んでおりません。</p> <p>3. 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">①勤務費用</td> <td style="text-align: right;">410百万円</td> </tr> <tr> <td>②利息費用</td> <td style="text-align: right;">47百万円</td> </tr> <tr> <td>③過去勤務債務の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">34百万円</td> </tr> <tr> <td>④数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">52百万円</td> </tr> <tr> <td>⑤退職給付費用(①+②+③+④)</td> <td style="text-align: right;">545百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は①勤務費用に計上しております。</p>	①退職給付債務	△3,786百万円	②年金資産	323百万円	③未積立退職給付債務(①+②)	△3,463百万円	④未認識過去勤務債務	136百万円	⑤未認識数理計算上の差異	220百万円	⑥貸借対照表計上額純額 (③+④+⑤)	△3,106百万円	⑦前払年金費用	43百万円	⑧退職給付引当金(⑥-⑦)	△3,150百万円	①勤務費用	410百万円	②利息費用	47百万円	③過去勤務債務の費用処理額	34百万円	④数理計算上の差異の費用処理額	52百万円	⑤退職給付費用(①+②+③+④)	545百万円	<p>1. 採用している退職給付制度の概要</p> <p style="text-align: center;">同左</p> <p>2. 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">①退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">△4,038百万円</td> </tr> <tr> <td>②年金資産</td> <td style="text-align: right;">361百万円</td> </tr> <tr> <td>③未積立退職給付債務(①+②)</td> <td style="text-align: right;">△3,677百万円</td> </tr> <tr> <td>④未認識過去勤務債務</td> <td style="text-align: right;">102百万円</td> </tr> <tr> <td>⑤未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">△58百万円</td> </tr> <tr> <td>⑥貸借対照表計上額純額 (③+④+⑤)</td> <td style="text-align: right;">△3,633百万円</td> </tr> <tr> <td>⑦前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">23百万円</td> </tr> <tr> <td>⑧退職給付引当金(⑥-⑦)</td> <td style="text-align: right;">△3,656百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 一部の連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。また、連結子会社である株式会社ソフマップは、関東ITソフトウェア厚生年金基金に加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は、退職給付会計実務指針33項の例外処理に該当する制度であります。同基金の年金資産残高のうち同社の加入人員割合に基づく平成19年8月31日現在の年金資産残高は、2,872百万円であり、上記年金資産には含んでおりません。</p> <p>3. 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">①勤務費用</td> <td style="text-align: right;">561百万円</td> </tr> <tr> <td>②利息費用</td> <td style="text-align: right;">73百万円</td> </tr> <tr> <td>③過去勤務債務の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">34百万円</td> </tr> <tr> <td>④数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">80百万円</td> </tr> <tr> <td>⑤退職給付費用(①+②+③+④)</td> <td style="text-align: right;">748百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 同左</p>	①退職給付債務	△4,038百万円	②年金資産	361百万円	③未積立退職給付債務(①+②)	△3,677百万円	④未認識過去勤務債務	102百万円	⑤未認識数理計算上の差異	△58百万円	⑥貸借対照表計上額純額 (③+④+⑤)	△3,633百万円	⑦前払年金費用	23百万円	⑧退職給付引当金(⑥-⑦)	△3,656百万円	①勤務費用	561百万円	②利息費用	73百万円	③過去勤務債務の費用処理額	34百万円	④数理計算上の差異の費用処理額	80百万円	⑤退職給付費用(①+②+③+④)	748百万円
①退職給付債務	△3,786百万円																																																				
②年金資産	323百万円																																																				
③未積立退職給付債務(①+②)	△3,463百万円																																																				
④未認識過去勤務債務	136百万円																																																				
⑤未認識数理計算上の差異	220百万円																																																				
⑥貸借対照表計上額純額 (③+④+⑤)	△3,106百万円																																																				
⑦前払年金費用	43百万円																																																				
⑧退職給付引当金(⑥-⑦)	△3,150百万円																																																				
①勤務費用	410百万円																																																				
②利息費用	47百万円																																																				
③過去勤務債務の費用処理額	34百万円																																																				
④数理計算上の差異の費用処理額	52百万円																																																				
⑤退職給付費用(①+②+③+④)	545百万円																																																				
①退職給付債務	△4,038百万円																																																				
②年金資産	361百万円																																																				
③未積立退職給付債務(①+②)	△3,677百万円																																																				
④未認識過去勤務債務	102百万円																																																				
⑤未認識数理計算上の差異	△58百万円																																																				
⑥貸借対照表計上額純額 (③+④+⑤)	△3,633百万円																																																				
⑦前払年金費用	23百万円																																																				
⑧退職給付引当金(⑥-⑦)	△3,656百万円																																																				
①勤務費用	561百万円																																																				
②利息費用	73百万円																																																				
③過去勤務債務の費用処理額	34百万円																																																				
④数理計算上の差異の費用処理額	80百万円																																																				
⑤退職給付費用(①+②+③+④)	748百万円																																																				

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
<p>4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>①割引率 2.0%</p> <p>②期待運用収益率 0.0%</p> <p>③退職給付見込額の期間配分方法 期間定額基準</p> <p>④過去勤務債務の処理年数 5年 (各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生した連結会計年度から費用処理することとしております。)</p> <p>⑤数理計算上の差異の処理年数 5年、10年 (各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生した翌連結会計年度から費用処理することとしております。)</p>	<p>4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>①割引率 2.0%</p> <p>②期待運用収益率 0.0%</p> <p>③退職給付見込額の期間配分方法 期間定額基準</p> <p>④過去勤務債務の処理年数 5年 同左</p> <p>⑤数理計算上の差異の処理年数 5年、10年 同左</p>

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成18年8月31日)	当連結会計年度 (平成19年8月31日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (単位：百万円)	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (単位：百万円)
繰延税金資産	繰延税金資産
ポイント引当金 4,619	ポイント引当金 4,825
繰越欠損金 4,107	繰越欠損金 3,538
流動化取消による影響額 ※ 782	減損損失 1,441
減損損失 1,667	退職給付引当金 1,475
退職給付引当金 1,260	流動化取消による影響額 ※ 744
賞与引当金 590	賞与引当金 692
貸倒引当金 192	貸倒引当金 120
未払事業税 329	未払事業税 418
投資有価証券評価損 312	投資有価証券評価損 1,288
役員退職慰労引当金 204	役員退職慰労引当金 219
その他 416	その他 632
繰延税金資産小計 14,483	繰延税金資産小計 15,397
評価性引当額 △8,229	評価性引当額 △7,953
繰延税金資産合計 6,254	繰延税金資産合計 7,444
繰延税金負債	繰延税金負債
その他有価証券評価差額金 △1,174	その他有価証券評価差額金 △1,652
その他 △351	その他 △63
繰延税金負債合計 △1,525	繰延税金負債合計 △1,716
繰延税金資産の純額 4,729	繰延税金資産の純額 5,728
※ 不動産の流動化に係る処理を訂正したことにより発生したものです。訂正報告書提出日現在において、法人税の取り扱いが未確定であり、一時差異として取り扱われるか否か不明であります。なお、当該一時差異につきましては、全額評価性引当額を計上しております。	同左
当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。 (単位：百万円)	当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。 (単位：百万円)
流動資産－繰延税金資産 5,339	流動資産－繰延税金資産 5,570
固定資産－繰延税金資産 ー	固定資産－繰延税金資産 157
流動負債－繰延税金負債 ー	流動負債－繰延税金負債 ー
固定負債－繰延税金負債 610	固定負債－繰延税金負債 ー
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 (単位：%)	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 (単位：%)
法定実効税率 40.69	法定実効税率 40.69
(調整)	(調整)
連結調整勘定償却 1.05	のれん償却 1.86
交際費等永久に損金に算入されない項目 0.28	交際費等永久に損金に算入されない項目 0.58
留保金課税額 5.80	留保金課税額 3.99
住民税均等割等 0.60	住民税均等割等 0.63
評価性引当額 2.00	評価性引当額 0.42
その他 △0.64	その他 △0.18
税効果会計適用後の法人税等の負担率 49.78	税効果会計適用後の法人税等の負担率 47.99

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)

当社グループは音響映像商品・家庭電化商品・情報通信機器商品等の物品販売事業を主たる事業としております。

全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める上記事業の割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)

当社グループは音響映像商品・家庭電化商品・情報通信機器商品等の物品販売事業を主たる事業としております。

全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める上記事業の割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前連結会計年度(自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

【関連当事者との取引】

前連結会計年度（自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日）

(1) 役員及び個人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員、 主要株主 (個人)	新井隆二	—	—	当社 代表取締役 会長	(被所有) 直接 75.4	—	—	有価証券の譲渡 (注7)	36	—	—
								有価証券の購入 (注7)	10	—	—
役員、 主要株主 (個人)の 近親者	佐藤安	—	—	司法書士	(被所有) 直接 0.1	—	—	報酬の支払 (注8)	1	—	—
役員、主 要株主 (個人)が 議決権の 過半数を 所有する 会社等 (当該会 社等の子 会社を 含む)	株式会社 シード (注2)	東京都 文京区	1,841	コンタク トレンズ の製造販 売業	—	—	商品仕入	商品の仕入 (注9)	165	買掛金	32
								受入出向料の 支払 (注10)	21	—	—
								消耗品の購入 (注9)	1	未払金	1
	日本精密測 器株式会社 (注3)	群馬県 渋川市	268	電気計測 器の製造	—	—	商品仕入	商品の仕入 (注9)	44	買掛金	11
	有限会社新 ローズベ イカントリー クラブ (注4)	東京都 豊島区	3	ゴルフ場 の運営	—	—	—	ゴルフ場利用料 の支払 (注9)	2	未払金	0
	株式会社ヒ ト・コミュ ニケーショ ンズ (注5)	東京都 豊島区	179	人材派遣 業	—	—	人材派遣	商品の販売 (注9)	4	—	—
								業務委託料の 支払 (注9)	15	未払金	16
								人材派遣料の 支払 (注9)	98	未払金	42
	役員、主 要株主 (個人)の 近親者が 議決権の 過半数を 所有する 会社等	有限会社 オフィスマ キ (注6)	群馬県 高崎市	3	損害保険 の代理業 等	—	—	損害保険 取引	保険料の支払 (注9、11)	236	前払費用 長期前払 費用 買掛金 未払金

- (注) 1. 取引金額には、消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 2. 当社の役員及び主要株主である新井隆二氏が議決権の 62.5%を直接保有しております。
 3. 当社の役員及び主要株主である新井隆二氏が議決権の 65.9%を直接保有しております。
 4. 当社の役員及び主要株主である新井隆二氏が議決権の 100.0%を直接保有しております。
 5. 当社の役員及び主要株主である新井隆二氏が議決権の 98.0%を直接保有しております。
 6. 当社の役員及び主要株主である新井隆二氏の近親者が議決権の 100.0%を直接保有しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

7. 有価証券の譲渡及び購入については、純資産方式により算定した評価額に基づいて決定しております。
8. 報酬の支払については、業務内容を勘案のうえ一般取引価格を参考に決定しております。
9. 商品の販売及び仕入、消耗品の購入、ゴルフ場利用料、業務委託料及び人材派遣料並びに保険料の支払については、一般取引条件と同様に決定しております。
10. 受入出向料の支払については、出向者に係る実質負担額によっております。
11. 有限会社オフィスマキは、東京海上日動火災保険株式会社の保険代理店であり、取引金額は当社が有限会社オフィスマキを通じて、東京海上日動火災保険株式会社に支払った保険料であります。

当連結会計年度（自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日）

(1) 役員及び個人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員、 主要株主 (個人)	新井隆二	—	—	当社 代表取締役 会長	(被所有) 直接 72.4	—	—	有価証券の譲渡 (注6)	3	—	—
役員、主 要株主 (個人)が 議決権の 過半数を 所有する 会社等 (当該会 社等の子 会社を含 む)	株式会社 シード (注2)	東京都 文京区	1,841	コンタク トレンズ の製造販 売業	(被所有) 直接 0.3	—	商品仕入	商品の仕入 (注7)	155	買掛金	23
								受入出向料の 支払 (注8)	16	—	—
								消耗品の購入 (注7)	1	—	—
	日本精密測 器株式会社 (注3)	群馬県 渋川市	268	電気計測 器の製造	—	—	商品仕入	商品の仕入 (注7)	33	買掛金	2
	株式会社ヒ ト・コミュニ ケーション ズ (注4)	東京都 豊島区	179	人材派遣 業	—	—	人材派遣	商品の販売 (注7)	1	—	—
								業務委託料の 支払 (注7)	16	—	—
人材派遣料の 支払 (注7)								58	—	—	
役員、主 要株主 (個人)の 近親者が 議決権の 過半数を 所有する 会社等	有限会社 オフィスマ キ (注5)	群馬県 高崎市	3	損害保険 の代理業 等	二	二	損害保険 取引	保険料の支払 (注7、9)	754	前払費用 長期前払 費用 買掛金 未払金	31 3 1 170

(注) 1. 取引金額には、消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 当社の役員及び主要株主である新井隆二氏が議決権の 64.0%を直接保有しております。

3. 当社の役員及び主要株主である新井隆二氏が議決権の 65.8%を直接保有しております。

4. 当社の役員及び主要株主である新井隆二氏が議決権の 83.2%を直接保有しております。

5. 当社の役員及び主要株主である新井隆二氏の近親者が議決権の 100.0%を直接保有しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

6. 有価証券の譲渡については、純資産方式により算定した評価額に基づいて決定しております。

7. 商品の販売及び仕入、消耗品の購入、業務委託料、人材派遣料及び保険料の支払については、一般取引条件と同様に決定しております。

8. 受入出向料の支払については、出向者に係る実質負担額によっております。

9. 有限会社オフィスマキは、東京海上日動火災保険株式会社の保険代理店であり、取引金額は当社が有限会社オフィスマキを通じて、東京海上日動火災保険株式会社に支払った保険料であります。

(企業結合等関係)

当連結会計年度（自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日）

重要性がないため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)		当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)	
1株当たり純資産額	55,301円26銭	1株当たり純資産額	65,265円27銭
1株当たり当期純利益	9,612円76銭	1株当たり当期純利益	9,616円11銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益の算定の基礎

項目	前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
連結損益計算書上の当期純利益 (百万円)	6,202	7,271
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	6,202	7,271
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式の期中平均株式数 (株)	645,259	756,201

(重要な後発事象)

前連結会計年度(自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)

1. 株式分割について

当社は、平成19年7月9日開催の取締役会において、株式の分割について決議しております。

(1) 株式分割の目的

投資家の皆様に投資していただきやすい環境を整えるため、当社株式の最低投資金額の引下げ、株式流動性の向上及び投資家層の拡大を目的としております。

(2) 株式分割の概要

① 分割の方法

平成19年8月31日(金曜日)最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主の所有普通株式1株につき2株の割合をもって分割しております。

② 発行可能株式総数の増加

会社法第184条第2項の規定に基づき、平成19年9月1日(土曜日)付をもって当社の定款第5条の「発行可能株式総数」を2,541,000株増加させ、5,082,000株に変更しております。

③ 分割により増加する株式数

普通株式 756,201株

(3) 日程

基準日 平成19年8月31日(金曜日)

効力発生日 平成19年9月1日(土曜日)

株券交付日 平成19年10月22日(月曜日)

(4) 1株当たりの情報に関する影響

当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報については、それぞれ以下のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
1株当たり純資産額 <u>27,650円63銭</u>	1株当たり純資産額 <u>32,632円64銭</u>
1株当たり当期純利益 <u>4,806円38銭</u>	1株当たり当期純利益 <u>4,808円06銭</u>
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 株式会社ベスト電器との業務・資本提携及び同社の第三者割当増資の引受について

当社は平成19年9月20日開催の取締役会において、株式会社ベスト電器との業務・資本提携及び当社を割当先とした同社の第三者割当増資の引受について決議しております。

当該引受に伴い、平成19年10月5日に同社の発行済株式総数の9.33%を、57億5百万円で取得しております。

業務提携の詳細については、今後、業務提携推進委員会の協議を経て確定していく予定ですが、以下の事項について検討・推進してまいります。

- ① 修理センター・機能の相互利用
- ② 物流ネットワーク・サービスの相互利用
- ③ 人材の相互交流
- ④ オリジナル商品の共同開発
- ⑤ スポーツ、玩具、酒類、寝具等の販売に向けた協力
- ⑥ 海外事業ノウハウの共有
- ⑦ 間接材の共同調達
- ⑧ ポイントカタログの共通利用
- ⑨ 店舗運営ノウハウの共有

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
(株)ビックカメラ	第1回無担保社債	平成17年 9月30日	2,400	1,800 (600)	0.780	無担保社債	平成22年 8月31日
(株)ソフマップ	第6回無担保社債	平成14年 8月16日	100	50 (50)	0.630	無担保社債	平成20年 8月15日
(株)ソフマップ (注)2	第8回無担保社債	平成14年 8月26日	288	160 (160)	0.510	無担保社債	平成20年 8月26日
(株)ソフマップ (注)2	第9回無担保社債	平成15年 3月25日	160	80 (80)	0.330	無担保社債	平成20年 3月25日
(株)ソフマップ (注)2	第10回無担保社債	平成15年 3月27日	172	86 (86)	0.310	無担保社債	平成20年 3月27日
(株)ソフマップ	第11回無担保社債	平成15年 9月11日	50	— (—)	0.470	無担保社債	平成18年 9月11日
(株)ソフマップ (注)2	第12回無担保社債	平成15年 9月26日	215	129 (129)	0.790	無担保社債	平成20年 9月26日
(株)ソフマップ (注)2	第13回無担保社債	平成16年 3月31日	180	120 (120)	0.590	無担保社債	平成21年 3月31日
(株)ラネット	第1回無担保社債	平成18年 3月31日	300	240 (60)	1.330	無担保社債	平成23年 3月31日
(株)ボーダレス	第1回無担保社債	平成19年 3月1日	—	300 (60)	1.400	無担保社債	平成24年 2月29日
(株)三山コーポレーション	第1回D号無担保社債	平成14年 8月23日	650	— (—)	平成19年 10月25日まで 2.090 平成19年 10月26日以降 3.590	無担保社債	平成18年 10月25日
(株)三山コーポレーション	第1回E号無担保社債	平成14年 8月23日	1,300	650 (650)	平成19年 10月25日まで 2.410 平成19年 10月26日以降 3.910	無担保社債	平成19年 10月25日
(株)三山コーポレーション	第1回F号無担保社債	平成14年 8月23日	9,000	9,000 (9,000)	平成19年 10月25日まで 3.050 平成19年 10月26日以降 4.550	無担保社債	平成21年 10月25日
(株)三山コーポレーション	第1回G号無担保社債	平成14年 8月23日	2,500	2,500 (2,500)	平成19年 10月25日まで 3.550 平成19年 10月26日以降 5.050	無担保社債	平成21年 10月25日
合計	—	—	17,315	15,115 (13,495)	—	—	—

- (注) 1. 「当期末残高」欄の () 内書は、1年以内の償還予定額であります。
 2. 平成19年9月に繰上償還しております。
 3. 連結決算日後5年以内における償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
13,495	720	720	120	60

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	14,494	26,519	1.53	—
1年以内に返済予定の長期借入金	24,438	28,155	2.70	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	44,475	27,445	1.97	平成20年9月～ 平成25年9月
その他の有利子負債	—	—	—	—
合計	83,408	82,121	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	15,508	8,246	2,305	1,120

(2) 【その他】

① 決算日後の状況

特記事項はありません。

② 訴訟等

当社は、株式会社ランドコンセプトを相手取り、東京地方裁判所に平成18年10月6日に訴訟の提起を行い、現在係争中です。

当社は、平成2年8月24日に株式会社恩田園と池袋東口駅前店（現池袋東口カメラ館）の賃貸借契約を締結し、これに伴い保証金1,843百万円を支払っております。平成18年8月14日、池袋東口駅前店（現池袋東口カメラ館）は担保不動産競売により、株式会社ランドコンセプトが取得しており、当社はこれに伴う賃貸借の賃借人たる地位を継承しておりますが、同社は賃貸人の地位の一部である保証金の大幅な減額を要求したため、当社は同社を相手取り提訴したものであります。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

区分	注記 番号	前事業年度 (平成18年8月31日)		当事業年度 (平成19年8月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 現金及び預金	※1,4	29,694		16,738	
2. 売掛金	※2	11,233		12,265	
3. 商品		19,483		22,234	
4. 貯蔵品		41		61	
5. 前渡金		202		10	
6. 前払費用		1,303		1,439	
7. 繰延税金資産		5,212		5,432	
8. 短期貸付金	※2	7,798		5,778	
9. 未収入金	※2	6,709		8,037	
10. その他	※2	599		1,649	
貸倒引当金		△11		△21	
流動資産合計		82,267	43.1	73,627	38.0
II 固定資産					
1. 有形固定資産					
(1) 建物	※1,4	18,777		20,389	
減価償却累計額		7,267	11,509	7,705	12,683
(2) 構築物		690		831	
減価償却累計額		454	236	424	407
(3) 機械及び装置		15		25	
減価償却累計額		13	2	16	9
(4) 車両運搬具		97		72	
減価償却累計額		84	13	66	5
(5) 器具備品		33		30	
減価償却累計額		32	1	8	21
(6) 土地	※1,4		35,630		35,636
(7) 建設仮勘定			—		35
有形固定資産合計		47,393	24.8	48,799	25.1

区分	注記 番号	前事業年度 (平成18年8月31日)		当事業年度 (平成19年8月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
2. 無形固定資産					
(1) 特許権		1		0	
(2) 借地権	※1,4	<u>11,390</u>		<u>11,390</u>	
(3) 商標権		25		19	
(4) ソフトウェア		389		445	
(5) ソフトウェア仮勘定		78		220	
(6) その他		83		80	
無形固定資産合計		<u>11,969</u>	<u>6.3</u>	<u>12,157</u>	<u>6.3</u>
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	※1	<u>15,439</u>		<u>20,122</u>	
(2) 関係会社株式		<u>10,161</u>		<u>12,277</u>	
(3) 出資金		339		339	
(4) 関係会社出資金		3		3	
(5) 従業員長期貸付金		0		0	
(6) 関係会社長期貸付金		2,853		4,045	
(7) 長期前払費用		<u>216</u>		<u>63</u>	
(8) 繰延税金資産		二		<u>108</u>	
(9) 保証金	※1	<u>20,378</u>		<u>22,478</u>	
(10) その他		83		117	
貸倒引当金		<u>△161</u>		<u>△167</u>	
投資その他の資産合計		<u>49,313</u>	<u>25.8</u>	<u>59,389</u>	<u>30.6</u>
固定資産合計		<u>108,676</u>	<u>56.9</u>	<u>120,347</u>	<u>62.0</u>
資産合計		<u>190,943</u>	100.0	<u>193,974</u>	100.0

区分	注記 番号	前事業年度 (平成18年8月31日)		当事業年度 (平成19年8月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 買掛金	※2	33,101		33,324	
2. 短期借入金	※1,5	11,266		20,984	
3. 一年内返済予定長期 借入金	※ 1,2,4	<u>22,487</u>		<u>38,358</u>	
4. 一年内償還予定社債		600		600	
5. 未払金		<u>3,577</u>		<u>4,397</u>	
6. 未払費用		<u>1,951</u>		<u>2,076</u>	
7. 未払法人税等		3,720		4,503	
8. 未払消費税等		<u>293</u>		<u>373</u>	
9. 前受金		1,281		1,404	
10. 預り金		447		609	
11. 前受収益		71		69	
12. 賞与引当金		1,137		1,310	
13. ポイント引当金		10,658		10,871	
14. その他	※1	525		741	
流動負債合計		<u>91,120</u>	<u>47.7</u>	<u>119,624</u>	<u>61.7</u>
II 固定負債					
1. 社債		1,800		1,200	
2. 長期借入金	※1,4	<u>28,405</u>		18,660	
3. 関係会社長期借入金	※4	<u>23,522</u>		1,998	
4. 繰延税金負債		<u>648</u>		—	
5. 退職給付引当金		1,527		1,940	
6. 役員退職慰労引当金		502		537	
7. その他		912		757	
固定負債合計		<u>57,319</u>	<u>30.0</u>	25,094	<u>12.9</u>
負債合計		<u>148,439</u>	<u>77.7</u>	<u>144,718</u>	<u>74.6</u>

区分	注記 番号	前事業年度 (平成18年8月31日)		当事業年度 (平成19年8月31日)		
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
(純資産の部)						
I 株主資本						
1. 資本金			12,548	6.6	12,548	6.5
2. 資本剰余金						
(1) 資本準備金		12,122		12,122		
資本剰余金合計			12,122	6.4	12,122	6.2
3. 利益剰余金						
(1) 利益準備金		27		27		
(2) その他利益剰余金						
別途積立金		8,760		8,760		
繰越利益剰余金		7,341		13,128		
利益剰余金合計			16,129	8.4	21,915	11.3
株主資本合計			40,799	21.4	46,585	24.0
II 評価・換算差額等						
1. その他有価証券評価 差額金			1,704	0.9	2,670	1.4
評価・換算差額等 合計			1,704	0.9	2,670	1.4
純資産合計			42,503	22.3	49,255	25.4
負債純資産合計			190,943	100.0	193,974	100.0

② 【損益計算書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)		当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)			
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)		
I 売上高			428,135	100.0	446,409	100.0	
II 売上原価							
1. 期首商品たな卸高		17,567			19,483		
2. 当期商品仕入高		326,574			340,707		
合計		344,142			360,191		
3. 期末商品たな卸高		19,483	324,659	75.8	22,234	337,956	75.7
売上総利益			103,476	24.2		108,452	24.3
III 販売費及び一般管理費							
1. 広告宣伝費		5,503			5,388		
2. 支払手数料		4,921			6,373		
3. 販売促進費		4,212			3,610		
4. ポイント販促費		33,836			33,057		
5. ポイント引当金繰入額		1,123			212		
6. 給料手当		11,686			11,950		
7. 賞与引当金繰入額		1,137			1,310		
8. 退職給付費用		378			505		
9. 役員退職慰労引当金繰入額		118			66		
10. 地代家賃		11,032			12,499		
11. 減価償却費		1,251			1,134		
12. 貸倒引当金繰入額		—			8		
13. その他		15,149	90,353	21.1	16,855	92,972	20.8
営業利益			13,122	3.1		15,480	3.5
IV 営業外収益							
1. 受取利息	※1	153			240		
2. 受取配当金	※1	594			53		
3. 受取手数料		—			391		
4. 賃貸料収入	※1	1,432			1,155		
5. 広告料収入		454			494		
6. その他		385	3,020	0.7	346	2,682	0.5
V 営業外費用							
1. 支払利息	※1	2,208			1,913		
2. 社債利息		20			17		
3. 賃貸料原価		885			652		
4. 貸倒引当金繰入額		—			5		
5. その他		306	3,420	0.8	223	2,813	0.6
経常利益			12,722	3.0		15,348	3.4

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)			当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)		
		金額 (百万円)		百分比 (%)	金額 (百万円)		百分比 (%)
VI 特別利益							
1. 固定資産売却益	※ 2	28			0		
2. 投資有価証券売却益		210			36		
3. 関係会社株式売却益		10			51		
4. 貸倒引当金戻入益		42	291	0.1	二	88	0.0
VII 特別損失							
1. 固定資産除却損	※ 3	—			192		
2. 投資有価証券評価損		3			2,653		
3. 関係会社株式売却損		—			7		
4. 関係会社整理損		3			—		
5. 減損損失	※ 4	670	677	0.2	6	2,859	0.6
税引前当期純利益			12,336	2.9		12,577	2.8
法人税、住民税及び 事業税		6,257			7,493		
法人税等調整額		△656	5,600	1.3	△1,457	6,035	1.3
当期純利益			6,735	1.6		6,542	1.5

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
				別途積立金	繰越利益 剰余金	
平成17年8月31日残高 (百万円)	1,050	623	27	5,760	3,765	9,552
事業年度中の変動額						
新株の発行	11,498	11,498	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	—	—	△158	△158
当期純利益	—	—	—	—	6,735	6,735
別途積立金の積立	—	—	—	3,000	△3,000	—
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計 (百万円)	11,498	11,498	—	3,000	3,576	6,576
平成18年8月31日残高 (百万円)	12,548	12,122	27	8,760	7,341	16,129

	株主資本	評価・換算差額等	純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
平成17年8月31日残高 (百万円)	11,226	487	11,713
事業年度中の変動額			
新株の発行	22,996	—	22,996
剰余金の配当	△158	—	△158
当期純利益	6,735	—	6,735
別途積立金の積立	—	—	—
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)	—	1,217	1,217
事業年度中の変動額合計 (百万円)	29,573	1,217	30,790
平成18年8月31日残高 (百万円)	40,799	1,704	42,503

当事業年度(自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
				別途積立金	繰越利益 剰余金	
平成18年8月31日残高 (百万円)	12,548	12,122	27	8,760	7,341	16,129
事業年度中の変動額						
剰余金の配当	—	—	—	—	△756	△756
当期純利益	—	—	—	—	6,542	6,542
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計 (百万円)	—	—	—	—	5,786	5,786
平成19年8月31日残高 (百万円)	12,548	12,122	27	8,760	13,128	21,915

	株主資本	評価・換算差額等	純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
平成18年8月31日残高 (百万円)	40,799	1,704	42,503
事業年度中の変動額			
剰余金の配当	△756	—	△756
当期純利益	6,542	—	6,542
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)	—	965	965
事業年度中の変動額合計 (百万円)	5,786	965	6,752
平成19年8月31日残高 (百万円)	46,585	2,670	49,255

重要な会計方針

項目	前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p>	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	時価法を採用しております。	同左
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法	<p>(1) 商品 売価還元法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) 貯蔵品 最終仕入原価法による原価法を採用しております。</p>	<p>(1) 商品 同左</p> <p>(2) 貯蔵品 同左</p>
4. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。 また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 2～50年</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p>	<p>(1) 有形固定資産 同左</p> <p>(2) 無形固定資産 同左</p>
5. 繰延資産の処理方法	<p>(1) 社債発行費 支出時に全額費用処理しております。</p> <p>(2) 株式交付費 支出時に全額費用処理しております。</p>	<p>(1) 社債発行費 ——</p> <p>(2) 株式交付費 ——</p>

項目	前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
6. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 なお、回収可能性がほとんど無いと判断した回収不能見込額(219百万円)については、債権から直接減額しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当期負担額を計上しております。</p> <p>(3) ポイント引当金 将来のポイント使用による費用発生に備えるため、期末未使用ポイント残高に過去の使用実績割合等乗じた金額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。 過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。 数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌期から費用処理しております。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 なお、回収可能性がほとんど無いと判断した回収不能見込額(202百万円)については、債権から直接減額しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) ポイント引当金 将来のポイント(株主優待券を含む)使用による費用発生に備えるため、期末未使用ポイント残高に過去の使用実績割合等乗じた金額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 同左</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
7. リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	同左
8. ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法 金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 (ヘッジ手段) 金利スワップ (ヘッジ対象) 借入金の利息</p> <p>(3) ヘッジ方針 借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の判定を省略しております。</p>	<p>(1) ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>(3) ヘッジ方針 同左</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

会計処理の変更

前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
<p>(固定資産の減損に係る会計基準)</p> <p>当期より「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号)を適用しております。</p> <p>これにより税引前当期純利益が670百万円減少しております。</p> <p>なお、減損損失累計額については、改正後の財務諸表等規則に基づき、各資産の金額から直接控除しております。</p>	<p>—————</p>
<p>(貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準)</p> <p>当期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。</p> <p>これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>従来の「資本の部」の合計に相当する金額は42,503百万円であります。</p> <p>なお、財務諸表等規則の改正により、当期における貸借対照表の純資産の部については、改正後の財務諸表等規則により作成しております。</p>	<p>—————</p>
<p>—————</p>	<p>(固定資産の減価償却方法の変更)</p> <p>平成19年度の法人税法の改正(所得税法等の一部を改正する法律 平成19年3月30日 法律第6号)及び(法人税法施行令の一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号))に伴い、平成19年4月1日以降に取得したものについては、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。</p> <p>これによる損益に与える影響は軽微であります。</p>

表示方法の変更

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)</p>
<p>=====</p>	<p>(損益計算書)</p> <p>前事業年度において営業外収益「その他」に含めて表示しておりました「受取手数料」(前事業年度238百万円)については、当事業年度において営業外収益の総額の100分の10を超えることとなったため、当事業年度より区分掲記しております。</p>

注記事項

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成18年8月31日)	当事業年度 (平成19年8月31日)																																																				
<p>※1. 担保資産及び担保付債務</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金</td> <td style="text-align: right;">1,001百万円</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">2,976百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">18,450百万円</td> </tr> <tr> <td>借地権</td> <td style="text-align: right;">1,695百万円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">3,369百万円</td> </tr> <tr> <td>保証金</td> <td style="text-align: right;">5,972百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">33,465百万円</td> </tr> </table> <p>(2) 上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">4,486百万円</td> </tr> <tr> <td>一年内返済予定長期借入金</td> <td style="text-align: right;">9,380百万円</td> </tr> <tr> <td>その他(流動負債)</td> <td style="text-align: right;">525百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">15,236百万円</td> </tr> <tr> <td>東京カメラ流通協同組合の借入金</td> <td style="text-align: right;">6,523百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">36,153百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金	1,001百万円	建物	2,976百万円	土地	18,450百万円	借地権	1,695百万円	投資有価証券	3,369百万円	保証金	5,972百万円	計	33,465百万円	短期借入金	4,486百万円	一年内返済予定長期借入金	9,380百万円	その他(流動負債)	525百万円	長期借入金	15,236百万円	東京カメラ流通協同組合の借入金	6,523百万円	計	36,153百万円	<p>※1. 担保資産及び担保付債務</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金</td> <td style="text-align: right;">521百万円</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">2,762百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">18,464百万円</td> </tr> <tr> <td>借地権</td> <td style="text-align: right;">1,695百万円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">3,968百万円</td> </tr> <tr> <td>保証金</td> <td style="text-align: right;">5,861百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">33,274百万円</td> </tr> </table> <p>(2) 上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">7,031百万円</td> </tr> <tr> <td>一年内返済予定長期借入金</td> <td style="text-align: right;">7,322百万円</td> </tr> <tr> <td>その他(流動負債)</td> <td style="text-align: right;">735百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">11,247百万円</td> </tr> <tr> <td>東京カメラ流通協同組合の借入金</td> <td style="text-align: right;">3,813百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">30,148百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金	521百万円	建物	2,762百万円	土地	18,464百万円	借地権	1,695百万円	投資有価証券	3,968百万円	保証金	5,861百万円	計	33,274百万円	短期借入金	7,031百万円	一年内返済予定長期借入金	7,322百万円	その他(流動負債)	735百万円	長期借入金	11,247百万円	東京カメラ流通協同組合の借入金	3,813百万円	計	30,148百万円
現金及び預金	1,001百万円																																																				
建物	2,976百万円																																																				
土地	18,450百万円																																																				
借地権	1,695百万円																																																				
投資有価証券	3,369百万円																																																				
保証金	5,972百万円																																																				
計	33,465百万円																																																				
短期借入金	4,486百万円																																																				
一年内返済予定長期借入金	9,380百万円																																																				
その他(流動負債)	525百万円																																																				
長期借入金	15,236百万円																																																				
東京カメラ流通協同組合の借入金	6,523百万円																																																				
計	36,153百万円																																																				
現金及び預金	521百万円																																																				
建物	2,762百万円																																																				
土地	18,464百万円																																																				
借地権	1,695百万円																																																				
投資有価証券	3,968百万円																																																				
保証金	5,861百万円																																																				
計	33,274百万円																																																				
短期借入金	7,031百万円																																																				
一年内返済予定長期借入金	7,322百万円																																																				
その他(流動負債)	735百万円																																																				
長期借入金	11,247百万円																																																				
東京カメラ流通協同組合の借入金	3,813百万円																																																				
計	30,148百万円																																																				

前事業年度 (平成18年8月31日)	当事業年度 (平成19年8月31日)																																																																								
<p>※2. 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>売掛金</td><td style="text-align: right;">1,140百万円</td></tr> <tr><td>短期貸付金</td><td style="text-align: right;">7,798百万円</td></tr> <tr><td>未収入金</td><td style="text-align: right;">814百万円</td></tr> <tr><td>買掛金</td><td style="text-align: right;">1,487百万円</td></tr> <tr><td>一年内返済予定長期借入金</td><td style="text-align: right;">4,010百万円</td></tr> </table> <p>3. 偶発債務 <u>(1) 次の関係会社等について、金融機関からの借入金及びデリバティブ取引による債務に対し債務保証を行っております。</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">保証先</th> <th style="text-align: center;">金額(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東京カメラ流通協同組合</td><td style="text-align: right;">6,523</td></tr> <tr><td>株式会社ビックビルディング</td><td style="text-align: right;">2,520</td></tr> <tr><td>豊島ケーブルネットワーク株式会社</td><td style="text-align: right;">1,168</td></tr> <tr><td>その他2社</td><td style="text-align: right;">431</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">計</td><td style="text-align: right;">10,642</td></tr> </tbody> </table> <p><u>(2) 関係会社の借入債務に対する保証類似行為は次のとおりであります。</u></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>株式会社豊島企画</td><td style="text-align: right;">1,430百万円</td></tr> </table> <p>※4. 当社が所有する不動産信託受益権を譲渡した取引については、「特別目的会社を活用した不動産の流動化に係る譲渡人の会計処理に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第15号)に基づき、金融取引として処理しております。なお、当該処理により計上された当事業年度末の主な資産及び負債は下記のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>現金及び預金</td><td style="text-align: right;">5,203百万円</td></tr> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">4,266百万円</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">12,300百万円</td></tr> <tr><td>借地権</td><td style="text-align: right;">9,024百万円</td></tr> <tr><td>一年内返済予定長期借入金</td><td style="text-align: right;">1,300百万円</td></tr> <tr><td>長期借入金</td><td style="text-align: right;">3,000百万円</td></tr> <tr><td>関係会社長期借入金</td><td style="text-align: right;">19,709百万円</td></tr> </table>	売掛金	1,140百万円	短期貸付金	7,798百万円	未収入金	814百万円	買掛金	1,487百万円	一年内返済予定長期借入金	4,010百万円	保証先	金額(百万円)	東京カメラ流通協同組合	6,523	株式会社ビックビルディング	2,520	豊島ケーブルネットワーク株式会社	1,168	その他2社	431	計	10,642	株式会社豊島企画	1,430百万円	現金及び預金	5,203百万円	建物	4,266百万円	土地	12,300百万円	借地権	9,024百万円	一年内返済予定長期借入金	1,300百万円	長期借入金	3,000百万円	関係会社長期借入金	19,709百万円	<p>※2. 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>売掛金</td><td style="text-align: right;">981百万円</td></tr> <tr><td>短期貸付金</td><td style="text-align: right;">5,778百万円</td></tr> <tr><td>その他(流動資産)</td><td style="text-align: right;">1,614百万円</td></tr> <tr><td>買掛金</td><td style="text-align: right;">1,771百万円</td></tr> <tr><td>一年内返済予定長期借入金</td><td style="text-align: right;">21,524百万円</td></tr> </table> <p>3. 偶発債務 <u>(1) 次の関係会社等について、金融機関からの借入金及びデリバティブ取引による債務に対し債務保証を行っております。</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">保証先</th> <th style="text-align: center;">金額(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>東京カメラ流通協同組合</td><td style="text-align: right;">3,813</td></tr> <tr><td>株式会社東京計画</td><td style="text-align: right;">2,385</td></tr> <tr><td>豊島ケーブルネットワーク株式会社</td><td style="text-align: right;">934</td></tr> <tr><td>その他2社</td><td style="text-align: right;">386</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">計</td><td style="text-align: right;">7,519</td></tr> </tbody> </table> <p><u>(2) 関係会社の借入債務に対する保証類似行為は次のとおりであります。</u></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>株式会社豊島企画</td><td style="text-align: right;">1,422百万円</td></tr> </table> <p>※4. 当社が所有する不動産信託受益権を譲渡した取引については、「特別目的会社を活用した不動産の流動化に係る譲渡人の会計処理に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第15号)に基づき、金融取引として処理しております。なお、当該処理により計上された当事業年度末の主な資産及び負債は下記のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>現金及び預金</td><td style="text-align: right;">5,431百万円</td></tr> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">4,038百万円</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">12,300百万円</td></tr> <tr><td>借地権</td><td style="text-align: right;">9,024百万円</td></tr> <tr><td>一年内返済予定長期借入金</td><td style="text-align: right;">22,709百万円</td></tr> </table>	売掛金	981百万円	短期貸付金	5,778百万円	その他(流動資産)	1,614百万円	買掛金	1,771百万円	一年内返済予定長期借入金	21,524百万円	保証先	金額(百万円)	東京カメラ流通協同組合	3,813	株式会社東京計画	2,385	豊島ケーブルネットワーク株式会社	934	その他2社	386	計	7,519	株式会社豊島企画	1,422百万円	現金及び預金	5,431百万円	建物	4,038百万円	土地	12,300百万円	借地権	9,024百万円	一年内返済予定長期借入金	22,709百万円
売掛金	1,140百万円																																																																								
短期貸付金	7,798百万円																																																																								
未収入金	814百万円																																																																								
買掛金	1,487百万円																																																																								
一年内返済予定長期借入金	4,010百万円																																																																								
保証先	金額(百万円)																																																																								
東京カメラ流通協同組合	6,523																																																																								
株式会社ビックビルディング	2,520																																																																								
豊島ケーブルネットワーク株式会社	1,168																																																																								
その他2社	431																																																																								
計	10,642																																																																								
株式会社豊島企画	1,430百万円																																																																								
現金及び預金	5,203百万円																																																																								
建物	4,266百万円																																																																								
土地	12,300百万円																																																																								
借地権	9,024百万円																																																																								
一年内返済予定長期借入金	1,300百万円																																																																								
長期借入金	3,000百万円																																																																								
関係会社長期借入金	19,709百万円																																																																								
売掛金	981百万円																																																																								
短期貸付金	5,778百万円																																																																								
その他(流動資産)	1,614百万円																																																																								
買掛金	1,771百万円																																																																								
一年内返済予定長期借入金	21,524百万円																																																																								
保証先	金額(百万円)																																																																								
東京カメラ流通協同組合	3,813																																																																								
株式会社東京計画	2,385																																																																								
豊島ケーブルネットワーク株式会社	934																																																																								
その他2社	386																																																																								
計	7,519																																																																								
株式会社豊島企画	1,422百万円																																																																								
現金及び預金	5,431百万円																																																																								
建物	4,038百万円																																																																								
土地	12,300百万円																																																																								
借地権	9,024百万円																																																																								
一年内返済予定長期借入金	22,709百万円																																																																								

前事業年度 (平成18年8月31日)	当事業年度 (平成19年8月31日)												
<p>※5. 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行12行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当期末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">27,580百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">10,298百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">17,282百万円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額	27,580百万円	借入実行残高	10,298百万円	差引額	17,282百万円	<p>※5. 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行12行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当期末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">27,800百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">17,704百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">10,096百万円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額	27,800百万円	借入実行残高	17,704百万円	差引額	10,096百万円
当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額	27,580百万円												
借入実行残高	10,298百万円												
差引額	17,282百万円												
当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額	27,800百万円												
借入実行残高	17,704百万円												
差引額	10,096百万円												

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)														
※1. 関係会社項目 関係会社との取引に関するものが次のとおり含まれております。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">受取配当金</td> <td style="text-align: right;">500百万円</td> </tr> <tr> <td>賃貸料収入</td> <td style="text-align: right;">456百万円</td> </tr> <tr> <td>支払利息</td> <td style="text-align: right;">834百万円</td> </tr> </table>	受取配当金	500百万円	賃貸料収入	456百万円	支払利息	834百万円	※1. 関係会社項目 関係会社との取引に関するものが次のとおり含まれております。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">受取利息</td> <td style="text-align: right;">220百万円</td> </tr> <tr> <td>賃貸料収入</td> <td style="text-align: right;">230百万円</td> </tr> <tr> <td>支払利息</td> <td style="text-align: right;">779百万円</td> </tr> </table>	受取利息	220百万円	賃貸料収入	230百万円	支払利息	779百万円		
受取配当金	500百万円														
賃貸料収入	456百万円														
支払利息	834百万円														
受取利息	220百万円														
賃貸料収入	230百万円														
支払利息	779百万円														
※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">土地</td> <td style="text-align: right;">28百万円</td> </tr> </table>	土地	28百万円	※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> </table>	機械及び装置	0百万円										
土地	28百万円														
機械及び装置	0百万円														
※3. _____	※3. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">164百万円</td> </tr> <tr> <td>構築物</td> <td style="text-align: right;">18百万円</td> </tr> <tr> <td>車両運搬具</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>原状回復費用</td> <td style="text-align: right;">7百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">192百万円</td> </tr> </table>	建物	164百万円	構築物	18百万円	車両運搬具	0百万円	器具備品	0百万円	ソフトウェア	0百万円	原状回復費用	7百万円	計	192百万円
建物	164百万円														
構築物	18百万円														
車両運搬具	0百万円														
器具備品	0百万円														
ソフトウェア	0百万円														
原状回復費用	7百万円														
計	192百万円														

前事業年度
(自 平成17年9月1日
至 平成18年8月31日)

※4. 減損損失
当期において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類
埼玉県	営業店舗 2店舗	建物、ソフトウェア、リース資産
千葉県	営業店舗 1店舗	建物、リース資産
東京都	営業店舗 1店舗	建物、構築物、リース資産
	賃貸物件 1物件	建物、土地、その他
	遊休資産 1物件	建物、土地
神奈川県	営業店舗 1店舗	建物、リース資産
福岡県	営業店舗 2店舗	建物、構築物、リース資産、その他

当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本としており、遊休資産については、当該資産単独でグルーピングしております。

営業活動から生じる損益が継続してマイナスである店舗及び時価が著しく下落した遊休資産について、資産グループの固定資産簿価を全額回収できる可能性が低いと判断した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失(670百万円)として特別損失に計上しております。なお、減損損失の内訳は以下のとおりです。

建物	358百万円
構築物	64百万円
車両運搬具	0百万円
器具備品	0百万円
土地	39百万円
ソフトウェア	0百万円
リース資産	206百万円

当社の当該資産グループの回収可能価額は、正味売却価額と使用価値のいずれか高い方の金額により測定しております。なお、不動産については、不動産鑑定評価に基づき算定しており、ソフトウェア及びリース資産については、正味売却価額を零として算定しております。また、使用価値については、将来キャッシュ・フローを4%の割引率で割り引いて算定しております。

当事業年度
(自 平成18年9月1日
至 平成19年8月31日)

※4. 減損損失
当期において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類
福岡県	営業店舗 2店舗	建物、リース資産

当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本としており、遊休資産については、当該資産単独でグルーピングしております。

営業活動から生じる損益が継続してマイナスである店舗及び時価が著しく下落した遊休資産について、資産グループの固定資産簿価を全額回収できる可能性が低いと判断した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失(6百万円)として特別損失に計上しております。なお、減損損失の内訳は以下のとおりです。

建物	2百万円
リース資産	3百万円

当社の当該資産グループの回収可能価額は、正味売却価額と使用価値のいずれか高い方の金額により測定しております。なお、不動産については、不動産鑑定評価に基づき算定しており、ソフトウェア及びリース資産については、正味売却価額を零として算定しております。また、使用価値については、将来キャッシュ・フローを4%の割引率で割り引いて算定しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日）

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日）

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)					当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)				
1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (借主側)					1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (借主側)				
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額					(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額				
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	減損損失累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	減損損失累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
建物	5	1	0	3	建物	5	2	0	2
機械及び装置	6	2	0	4	機械及び装置	6	3	0	2
器具備品	3,278	1,234	193	1,850	器具備品	4,154	1,798	193	2,163
ソフトウェア	106	29	0	77	ソフトウェア	134	66	0	67
合計	3,397	1,267	194	1,935	合計	4,300	1,870	193	2,236
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。					(注) 同左				
(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額					(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額				
1年内 693百万円					1年内 829百万円				
1年超 1,405百万円					1年超 1,509百万円				
合計 2,099百万円					合計 2,338百万円				
リース資産減損勘定期末残高 164百万円					リース資産減損勘定期末残高 102百万円				
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。					(注) 同左				
(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失					(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失				
支払リース料 790百万円					支払リース料 779百万円				
リース資産減損勘定の取崩額 29百万円					リース資産減損勘定の取崩額 62百万円				
減価償却費相当額 790百万円					減価償却費相当額 779百万円				
減損損失 194百万円					減損損失 一百万円				
(4) 減価償却費相当額の算定方法					(4) 減価償却費相当額の算定方法				
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法 によっております。					同左				

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)</p>												
<p>2. オペレーティング・リース取引 (借主側)</p> <p style="padding-left: 40px;">未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">5,360百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">16,204百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">21,564百万円</td> </tr> </table>	1年内	5,360百万円	1年超	16,204百万円	合計	21,564百万円	<p>2. オペレーティング・リース取引 (借主側)</p> <p style="padding-left: 40px;">未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">5,524百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">21,824百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">27,349百万円</td> </tr> </table>	1年内	5,524百万円	1年超	21,824百万円	合計	27,349百万円
1年内	5,360百万円												
1年超	16,204百万円												
合計	21,564百万円												
1年内	5,524百万円												
1年超	21,824百万円												
合計	27,349百万円												

(有価証券関係)

前事業年度(平成18年8月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	1,417	3,229	1,811
関連会社株式	—	—	—
小計	1,417	3,229	1,811

当事業年度(平成19年8月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	1,358	2,685	1,327
関連会社株式	—	—	—
小計	1,358	2,685	1,327

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成18年8月31日)	当事業年度 (平成19年8月31日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (単位：百万円)	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (単位：百万円)
繰延税金資産	繰延税金資産
ポイント引当金 4,336	ポイント引当金 4,423
流動化取消による影響額 ※ 782	流動化取消による影響額 ※ 744
退職給付引当金 619	退職給付引当金 789
賞与引当金 462	賞与引当金 533
未払事業税 289	未払事業税 348
役員退職慰労引当金 204	役員退職慰労引当金 218
投資有価証券評価損 190	投資有価証券評価損 1,270
減損損失 249	減損損失 199
その他 226	その他 202
繰延税金資産小計 <u>7,362</u>	繰延税金資産小計 <u>8,731</u>
評価性引当額 <u>△1,281</u>	評価性引当額 <u>△1,501</u>
繰延税金資産合計 <u>6,080</u>	繰延税金資産合計 <u>7,230</u>
繰延税金負債	繰延税金負債
その他有価証券評価差額金 △1,171	その他有価証券評価差額金 △1,650
その他 △345	その他 △39
繰延税金負債合計 <u>△1,516</u>	繰延税金負債合計 <u>△1,689</u>
繰延税金資産の純額 <u>4,564</u>	繰延税金資産の純額 <u>5,540</u>
※ 不動産の流動化に係る処理を訂正したことにより発生したのですが、訂正報告書提出日現在において、法人税の取り扱いが未確定であり、一時差異として取り扱われるか否か不明であります。なお、当該一時差異につきましては、全額評価性引当額を計上しております。	同左
当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。 (単位：百万円)	当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。 (単位：百万円)
流動資産－繰延税金資産 5,212	流動資産－繰延税金資産 5,432
固定資産－繰延税金資産 二	固定資産－繰延税金資産 108
流動負債－繰延税金負債 一	流動負債－繰延税金負債 一
固定負債－繰延税金負債 648	固定負債－繰延税金負債 一
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳 (単位：%)	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳 (単位：%)
法定実効税率 40.69 (調整)	法定実効税率 40.69 (調整)
交際費等永久に損金に算入されない項目 0.20	交際費等永久に損金に算入されない項目 0.47
住民税均等割等 0.44	住民税均等割等 0.48
留保金課税額 5.98	留保金課税額 4.58
その他 △1.91	評価性引当金 2.04
税効果会計適用後の法人税等の負担率 <u>45.40</u>	その他 <u>△0.28</u>
	税効果会計適用後の法人税等の負担率 <u>47.98</u>

(企業結合等関係)

当事業年度（自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
1株当たり純資産額 <u>56,207円10銭</u>	1株当たり純資産額 <u>65,136円02銭</u>
1株当たり当期純利益 <u>10,438円62銭</u>	1株当たり当期純利益 <u>8,651円76銭</u>
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益の算定の基礎

	前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
損益計算書上の当期純利益(百万円)	<u>6,735</u>	<u>6,542</u>
普通株式に係る当期純利益(百万円)	<u>6,735</u>	<u>6,542</u>
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式の期中平均株式数(株)	645,259	756,201

(重要な後発事象)

前事業年度(自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)

1. 株式分割について

当社は、平成19年7月9日開催の取締役会において、株式の分割について決議しております。

(1) 株式分割の目的

投資家の皆様に投資していただきやすい環境を整えるため、当社株式の最低投資金額の引下げ、株式流動性の向上及び投資家層の拡大を目的としております。

(2) 株式分割の概要

① 分割の方法

平成19年8月31日(金曜日)最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主の所有普通株式1株につき2株の割合をもって分割しております。

② 発行可能株式総数の増加

会社法第184条第2項の規定に基づき、平成19年9月1日(土曜日)付をもって当社の定款第5条の「発行可能株式総数」を2,541,000株増加させ、5,082,000株に変更しております。

③ 分割により増加する株式数

普通株式 756,201株

(3) 日程

基準日 平成19年8月31日(金曜日)

効力発生日 平成19年9月1日(土曜日)

株券交付日 平成19年10月22日(月曜日)

(4) 1株当たりの情報に関する影響

当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報については、それぞれ以下のとおりであります。

前事業年度 (自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)	当事業年度 (自 平成18年9月1日 至 平成19年8月31日)
1株当たり純資産額 <u>28,103円55銭</u>	1株当たり純資産額 <u>32,568円01銭</u>
1株当たり当期純利益 <u>5,219円31銭</u>	1株当たり当期純利益 <u>4,325円88銭</u>
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 株式会社ベスト電器との業務・資本提携及び同社の第三者割当増資の引受について

当社は平成19年9月20日開催の取締役会において、株式会社ベスト電器との業務・資本提携及び当社を割当先とした同社の第三者割当増資の引受について決議しております。

当該引受に伴い、平成19年10月5日に同社の発行済株式総数の9.33%を、57億5百万円で取得しております。

業務提携の詳細については、今後、業務提携推進委員会の協議を経て確定していく予定ですが、以下の事項について検討・推進してまいります。

- ① 修理センター・機能の相互利用
- ② 物流ネットワーク・サービスの相互利用
- ③ 人材の相互交流
- ④ オリジナル商品の共同開発
- ⑤ スポーツ、玩具、酒類、寝具等の販売に向けた協力
- ⑥ 海外事業ノウハウの共有
- ⑦ 間接材の共同調達
- ⑧ ポイントカタログの共通利用
- ⑨ 店舗運営ノウハウの共有

④ 【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他 有価証券	株式会社東京放送	3,810,000	13,182
		株式会社エディオン	3,170,000	3,889
		株式会社BSジャパン	60,000	1,047
		ソースネクスト株式会社	4,000	612
		株式会社ほくほくフィナンシャルグループ	1,500,000	508
		株式会社上毛新聞社	20,000	180
		イー・モバイル株式会社	1,764	149
		株式会社ジー・モード	1,120	113
		株式会社荘内銀行	250,000	75
		株式会社みずほフィナンシャルグループ	68.88	50
		その他(12銘柄)	367,213.82	93
			小計	9,184,166.7
		計	9,184,166.7	19,902

【その他】

		種類及び銘柄	投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他 有価証券	(投資事業有限責任組合出資金) モバイル・インターネット第一号投資事業 有限責任組合	2	116
		(投資事業有限責任組合出資金) PACIFICA FUND I, L.P	—	103
		小計	2	219
		計	2	219

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(百万 円)	当期償却額 (百万円)	差引 当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	18,777	2,239	627 (2)	20,389	7,705	901	12,683
構築物	690	219	78 (-)	831	424	34	407
機械及び装置	15	12	2 (-)	25	16	4	9
車両運搬具	97	0	25 (-)	72	66	3	5
器具備品	33	30	33 (-)	30	8	9	21
土地	35,630	6	- (-)	35,636	-	-	35,636
建設仮勘定	-	35	- (-)	35	-	-	35
有形固定資産計	55,244	2,543	766 (2)	57,021	8,221	952	48,799
無形固定資産							
特許権	5	-	- (-)	5	4	0	0
借地権	11,390	-	- (-)	11,390	-	-	11,390
商標権	56	-	- (-)	56	37	5	19
ソフトウェア	933	216	0 (-)	1,149	704	160	445
ソフトウェア仮勘定	78	142	- (-)	220	-	-	220
その他	129	0	- (-)	130	49	3	80
無形固定資産計	12,595	358	0 (-)	12,953	795	170	12,157
長期前払費用	390	1	46	345	282	108	63
繰延資産							
-	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

- (注) 1. 当期減少額の()内は、内数で減損損失額を記載しております。
2. 当期増加額の主なものは次のとおりであります。

種類	内容	金額(百万円)
建 物	店舗新設に係る設備	1,453
	店舗改装に係る設備	549

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	173	28	—	13	188
賞与引当金	1,137	1,310	1,137	—	1,310
ポイント引当金	10,658	10,871	10,658	—	10,871
役員退職慰労引当金	502	66	30	—	537

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、一般債権の貸倒実績率による洗替額によるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 現金及び預金

区分		金額(百万円)
現金		2,425
預金の種類	普通預金	12,519
	定期預金	1,793
	小計	14,313
合計		16,738

② 売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
三井住友カード株式会社	2,071
三菱UFJニコス株式会社	1,742
株式会社ジェーシービー	1,734
ユーシーカード株式会社	1,656
東日本旅客鉄道株式会社	1,173
その他	3,887
合計	12,265

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	次期繰越高 (百万円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{\{(A) + (D)\} \div 2 \times 365}{(B)}$
11,233	209,785	208,753	12,265	94.5	20.4

(注) 1. 当期発生高は、主にクレジットカード等による掛売上であります。

2. 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

③ 商品

品目	金額(百万円)
時計	2,722
パソコンその他	2,528
パソコン周辺機器	2,265
パソコン本体	2,188
カメラ	1,472
その他	11,057
合計	22,234

④ 貯蔵品

区分	金額(百万円)
販売促進用消耗品	28
制服	16
包装用品	7
その他	10
合計	61

⑤ 関係会社株式

相手先	金額(百万円)
日本BS放送株式会社	4,345
株式会社東京計画	3,915
株式会社ソフマップ	2,873
株式会社生毛工房	210
株式会社ビックビックドットコム	200
その他	733
合計	12,277

⑥ 保証金

相手先	金額(百万円)
小田急電鉄株式会社	2,154
東映株式会社	2,125
株式会社ランドコンセプト	1,843
株式会社三峰	1,357
有限会社ルビーリアルティ	1,279
その他	13,718
合計	22,478

⑦ 買掛金

相手先	金額(百万円)
シャープエレクトロニクスマーケティング株式会社	1,974
ソニーマーケティング株式会社	1,810
パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社	1,649
ソフトバンクBB株式会社	1,544
株式会社富士通パーソナルズ	1,517
その他	24,827
合計	33,324

⑧ 短期借入金

相手先	金額(百万円)
株式会社みずほ銀行	5,536
株式会社三井住友銀行	4,800
みずほ信託銀行株式会社	2,000
株式会社足利銀行	1,500
株式会社北陸銀行	1,168
その他	5,980
合計	20,984

⑨ 一年内返済予定長期借入金

相手先	金額(百万円)
株式会社三山コーポレーション	<u>12,150</u> (12,150)
株式会社豊島企画	<u>7,550</u> (7,550)
日本政策投資銀行	<u>3,234</u> (3,000)
株式会社みずほ銀行	3,075
株式会社三井住友銀行	2,540
その他	<u>9,808</u>
合計	<u>38,358</u> (22,700)

(注) 上記のうち()内は、不動産の流動化に係る処理を金融取引としたことにより発生したものであります。

⑩ 長期借入金

相手先	金額(百万円)
株式会社みずほ銀行	3,119
株式会社りそな銀行	2,365
株式会社三井住友銀行	2,100
株式会社北陸銀行	2,073
住友信託銀行株式会社	1,966
その他	7,036
合計	18,660

(3) 【その他】

① 決算日後の状況

特記事項はありません。

② 訴訟等

当社は、株式会社ランドコンセプトを相手取り、東京地方裁判所に平成18年10月6日に訴訟の提起を行い、現在係争中です。

当社は、平成2年8月24日に株式会社恩田園と池袋東口駅前店（現池袋東口カメラ館）の賃貸借契約を締結し、これに伴い保証金1,843百万円を支払っております。平成18年8月14日、池袋東口駅前店（現池袋東口カメラ館）は担保不動産競売により、株式会社ランドコンセプトが取得しており、当社はこれに伴う賃貸借の賃借人たる地位を継承しておりますが、同社は賃貸人の地位の一部である保証金の大幅な減額を要求したため、当社は同社を相手取り提訴したものであります。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	9月1日から8月31日まで																				
定時株主総会	11月中																				
基準日	8月31日																				
株券の種類	1株券、10株券、100株券、1,000株券																				
剰余金の配当の基準日	2月末日、8月31日																				
1単元の株式数	—																				
株式の名義書換え																					
取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部																				
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社																				
取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店																				
名義書換手数料	無料																				
新券交付手数料	1枚につき200円																				
単元未満株式の買取り																					
取扱場所	—																				
株主名簿管理人	—																				
取次所	—																				
買取手数料	—																				
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行うこととしております。 なお、電子公告は当社のホームページに記載しており、そのアドレスは次のとおりであります。 http://www.biccamera.co.jp/ir/library/index4.html																				
株主に対する特典	毎年8月31日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主に対し、「株主お買物優待券」を贈呈いたします。併せて、長期保有株主には保有期間に応じて追加贈呈いたします。 1. 所有株式数に応じた株主優待 <table border="0"> <tr> <td>1株以上</td> <td>5株未満</td> <td>3,000円</td> <td>(1,000円券</td> <td>3枚)</td> </tr> <tr> <td>5株以上</td> <td>10株未満</td> <td>5,000円</td> <td>(1,000円券</td> <td>5枚)</td> </tr> <tr> <td>10株以上</td> <td>100株未満</td> <td>10,000円</td> <td>(1,000円券</td> <td>10枚)</td> </tr> <tr> <td>100株以上</td> <td></td> <td>50,000円</td> <td>(1,000円券</td> <td>50枚)</td> </tr> </table> 2. 保有期間に応じた株主優待（長期保有株主） 1年以上2年未満継続保有（1株以上） 1,000円（1,000円券 1枚） （半期ベースで連続3・4回同一株主番号にて株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された場合） 2年以上継続保有（1株以上） 2,000円（1,000円券 2枚） （半期ベースで連続5回以上同一株主番号にて株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された場合）	1株以上	5株未満	3,000円	(1,000円券	3枚)	5株以上	10株未満	5,000円	(1,000円券	5枚)	10株以上	100株未満	10,000円	(1,000円券	10枚)	100株以上		50,000円	(1,000円券	50枚)
1株以上	5株未満	3,000円	(1,000円券	3枚)																	
5株以上	10株未満	5,000円	(1,000円券	5枚)																	
10株以上	100株未満	10,000円	(1,000円券	10枚)																	
100株以上		50,000円	(1,000円券	50枚)																	

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第26期(自 平成17年9月1日 至 平成18年8月31日)平成18年11月29日に関東財務局長に提出

(2) 半期報告書

事業年度 第27期中(自 平成18年9月1日 至 平成19年2月28日)平成19年5月30日に関東財務局長に提出

(3) 臨時報告書

平成19年11月5日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号(主要株主の異動)の規定に基づくもの。

平成19年11月20日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項並びに企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号(当社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象)及び第19号(連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象)の規定に基づくもの。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成21年2月20日

株式会社ビックカメラ
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 公認会計士 山 田 眞 之 助 ㊞
業務執行社員

指定社員 公認会計士 井 上 智 由 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、旧証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビックカメラの平成17年9月1日から平成18年8月31日までの連結会計年度の訂正報告書の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ビックカメラ及び連結子会社の平成18年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

1. 有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき連結財務諸表を訂正している。当監査法人は訂正後の連結財務諸表について再度監査を行った。
2. 会計処理の変更に記載されているとおり、会社は当連結会計年度から固定資産の減損に係る会計基準を適用しているため、当該会計基準により連結財務諸表を作成している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成21年2月20日

株式会社ビックカメラ
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 公認会計士 山 田 眞 之 助 ㊞
業務執行社員

指定社員 公認会計士 井 上 智 由 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、旧証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビックカメラの平成18年9月1日から平成19年8月31日までの連結会計年度の訂正報告書の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ビックカメラ及び連結子会社の平成19年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

1. 有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき連結財務諸表を訂正している。当監査法人は訂正後の連結財務諸表について再度監査を行った。
2. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成19年7月9日開催の取締役会の決議に基づき、平成19年9月1日に株式の分割を行った。
3. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成19年9月20日開催の取締役会において、株式会社ベスト電器との業務・資本提携及び同社の第三者割当増資の引受について決議し、平成19年10月5日に同社の株式を取得した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成21年2月20日

株式会社ビックカメラ
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 公認会計士 山 田 眞 之 助 ㊞
業務執行社員

指定社員 公認会計士 井 上 智 由 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、旧証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビックカメラの平成17年9月1日から平成18年8月31日までの第26期事業年度の訂正報告書の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ビックカメラの平成18年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

1. 有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき財務諸表を訂正している。当監査法人は訂正後の財務諸表について再度監査を行った。
2. 会計処理の変更に記載されているとおり、会社は当事業年度から固定資産の減損に係る会計基準を適用しているため、当該会計基準により財務諸表を作成している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成21年2月20日

株式会社ビックカメラ
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 公認会計士 山 田 眞 之 助 ㊞
業務執行社員

指定社員 公認会計士 井 上 智 由 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、旧証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビックカメラの平成18年9月1日から平成19年8月31日までの第27期事業年度の訂正報告書の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ビックカメラの平成19年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

1. 有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき財務諸表を訂正している。当監査法人は訂正後の財務諸表について再度監査を行った。
2. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成19年7月9日開催の取締役会の決議に基づき、平成19年9月1日に株式の分割を行った。
3. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成19年9月20日開催の取締役会において、株式会社ベスト電器との業務・資本提携及び同社の第三者割当増資の引受について決議し、平成19年10月5日に同社の株式を取得した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

